

伊勢市 人口ビジョン

令和7年版



目 次

第1章	人口ビジョン改訂について.....	1
1-1	人口ビジョンの改訂にあたって.....	1
第2章	本市の人口の現状.....	2
2-1	人口に関する現状分析.....	2
2-2	自然増減の現状分析.....	6
2-3	社会増減の現状分析.....	12
2-4	人口減少にいたる要因.....	27
第3章	将来人口の推計.....	29
3-1	将来人口の推計方法.....	29
3-2	将来人口の推計結果.....	32
第4章	目指すべき将来の方向性.....	36
別冊	伊勢市地域の未来予測	

第1章 人口ビジョン改訂について

1-1 人口ビジョンの改訂にあたって

1-1-1 人口ビジョン改訂の背景と位置付け

人口減少・少子高齢化と東京圏への人口の一極集中が同時に進行する中、それぞれの地域で住みよい環境を確保し、将来にわたって活力ある日本社会の維持を目的とした「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（以下、「国の長期ビジョン」という。）」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、「国の総合戦略」という。）」が平成26年12月に閣議決定されました。

地方公共団体では、これらの内容を踏まえつつ、人口の現状と将来の展望を提示する「地方人口ビジョン」及び地域の実情に応じた5か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた「まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、「地方版総合戦略」という。）」の策定が求められ、本市では平成27年10月に「伊勢市人口ビジョン」（以下、「平成27年版」という。）及び「伊勢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、取組を進めてきました。

その後、新型コロナウイルス感染症の感染拡大などにより社会情勢が大きく変化する中、国においては、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す「デジタル田園都市国家構想」（以下、「国の構想」という。）の実現に向け、デジタルの力を活用しつつ、地域の個性を生かしながら地方の社会課題解決や魅力向上の取組を加速化・深化することとしています。

国においては、国の構想の実現を図るため、まち・ひと・しごと創生法第8条第1項に規定する「国の総合戦略」として「デジタル田園都市国家構想総合戦略」が令和4年12月に閣議決定され、その改訂版が令和5年12月に閣議決定されました。

地方公共団体は、これまでと同様に、適時に、人口動向分析・将来人口推計を行い、地方公共団体における人口の現状及び将来の見通しを見直すよう努めることが求められています。

これらの内容を踏まえて今般改訂する「伊勢市人口ビジョン」は、「平成27年版」を最新の統計データ等に反映するとともに、人口動向分析及び本市の実情に応じた将来人口推計を改めて実施しています。人口の現状及び将来の見通しを見直した「伊勢市人口ビジョン」は、今後、本市の基礎資料とするものです。

1-1-2 対象期間

2070年までを対象期間とします。

第2章 本市の人口の現状

本市の人口動向（総人口や年齢構成、自然増減、社会増減等）を分析するとともに、人口の変化に影響を与える要因等について整理を行います。

2-1 人口に関する現状分析

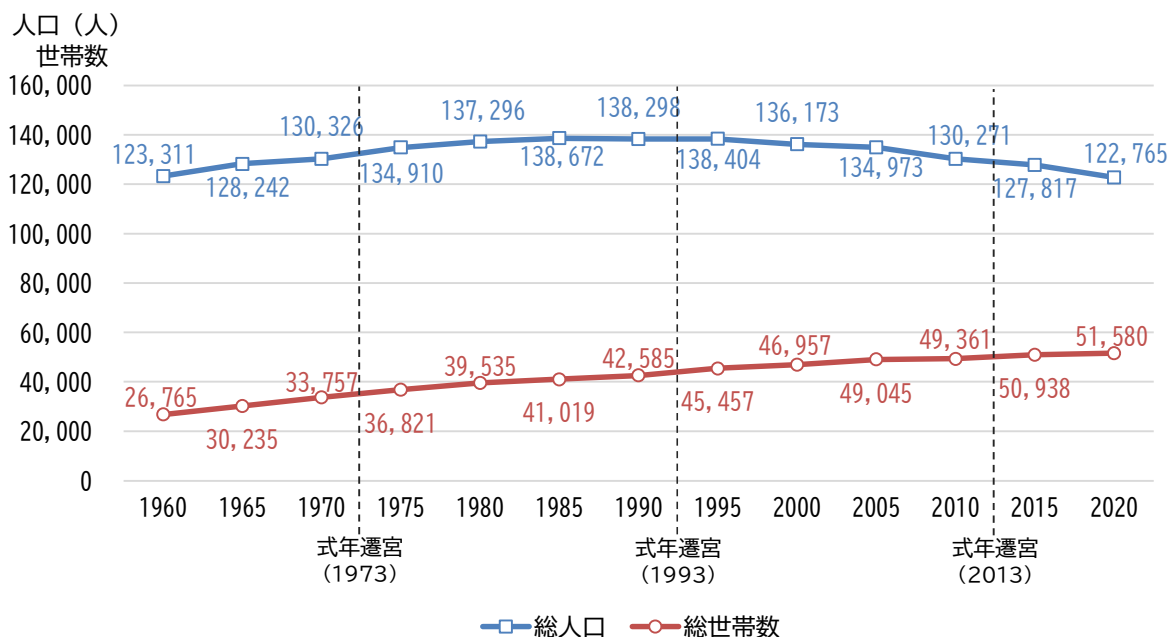
2-1-1 総人口・総世帯数

本市の人口は1985年にピークを迎え、以降は現在まで減少が続いています。2020年はピーク時から約16,000人下回り、1960年の水準まで減少しています。

1973年、1993年、2013年には式年遷宮が行われており、1975年、1995年、2015年の人口は、それ以前のトレンドよりも増加、もしくは減少を抑制する傾向がみられます。

人口が減少する一方で、核家族化の進展や単身世帯の増加などにより世帯数は増加傾向が続いています。

図表 1 総人口・総世帯数の推移



出典：総務省「国勢調査」

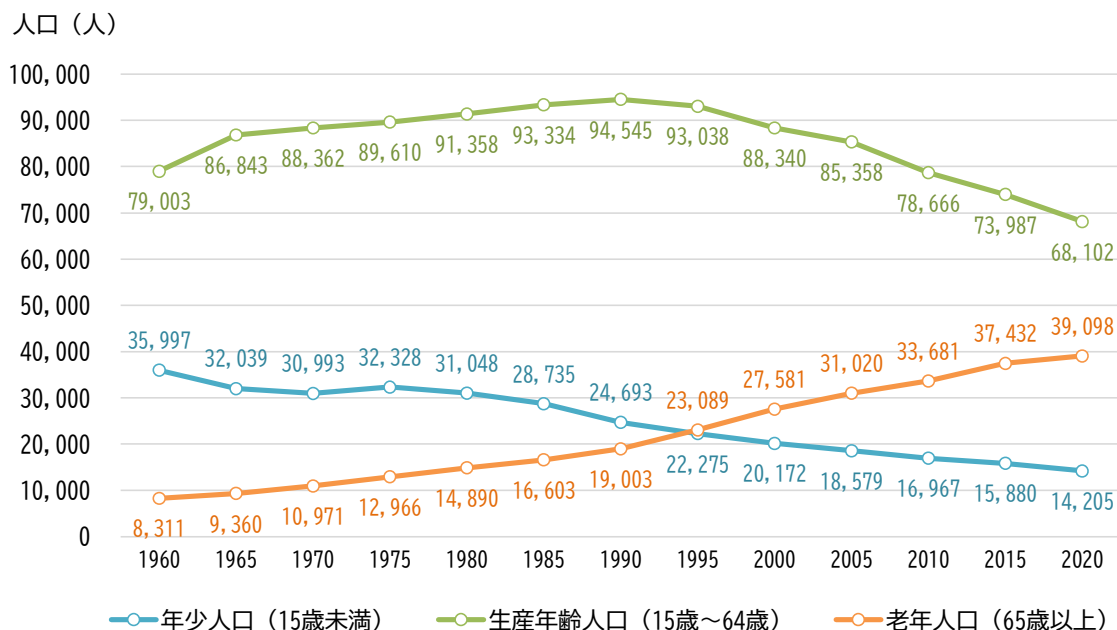
※合併（2005年11月1日）以前については、旧伊勢市、二見町、小俣町、御園村の合計数値

2-1-2 年齢3区分別人口の推移

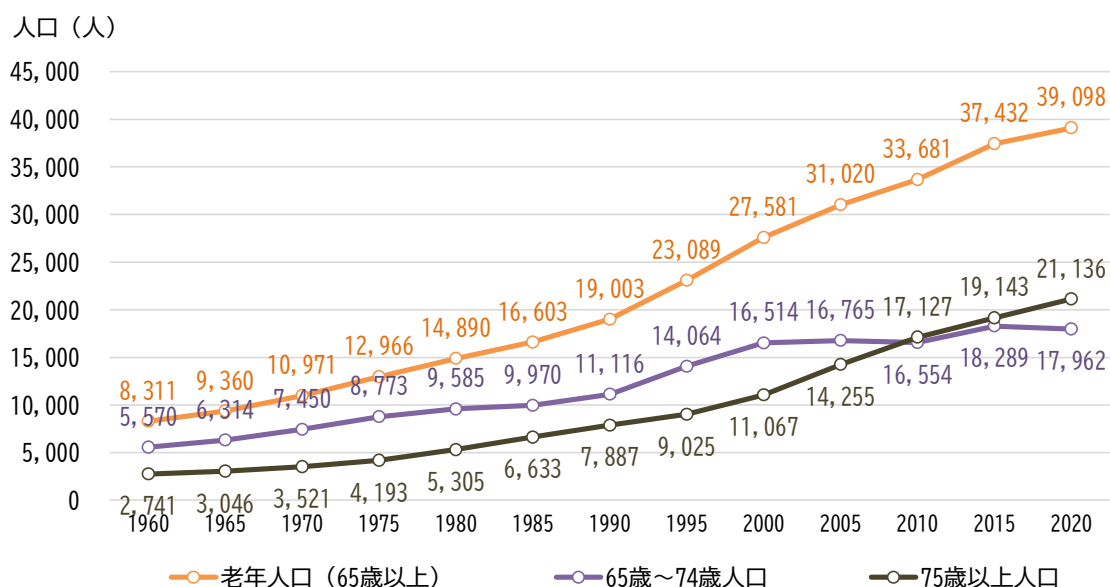
年齢3区分別による人口について、生産年齢人口は1990年をピークに減少に転じています。2020年はピーク時の30%近くにあたる約26,000人が減少しています。年少人口は1960年以降、減少傾向を続けており、本市の総人口がピークとなった1985年以降の35年間で半減しています。

老年人口を前期高齢者（65歳～74歳）と後期高齢者（75歳以上）で分けてみると、前期高齢者人口は2000年以降に増加傾向が緩やかになっています。一方、後期高齢者は増加傾向が続いています。

図表 2 年齢3区分別人口の推移



図表 3 老年人口の推移



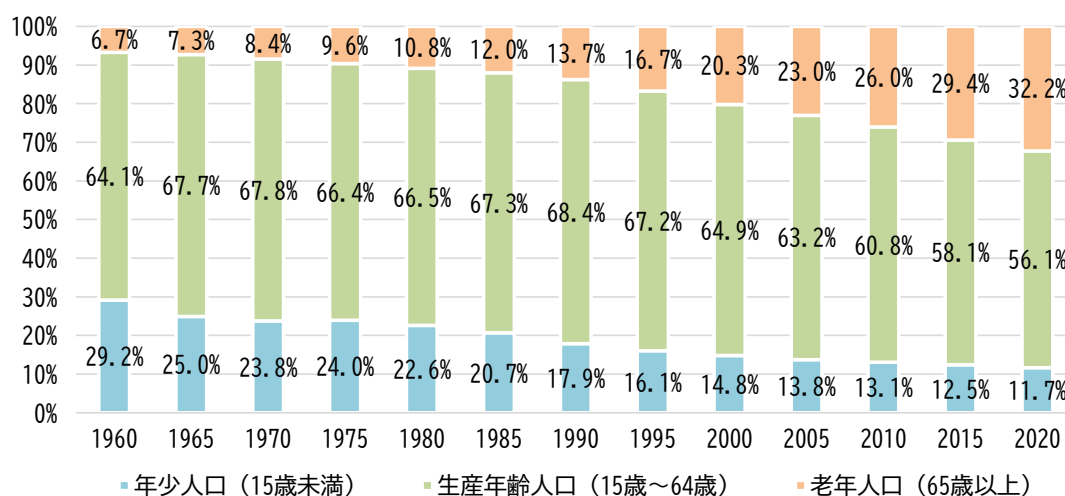
出典：総務省「国勢調査」※年齢区分別人口には、年齢不詳が含まれないため、合計は総人口とは一致しない

2-1-3 人口構造(年齢3区分別)

本市の人口のピークであった1985年は生産年齢人口が67.3%を占めていましたが、2020年には56.1%となり、11.2ポイント減少しています。

同一期間の推移をみると、年少人口割合は20.7%から9ポイント減少、老年人口割合は12.0%から20.2ポイント増加しており、少子高齢化の傾向が著しく進行していることがうかがえます。

図表 4 人口構造（年齢3区分別）

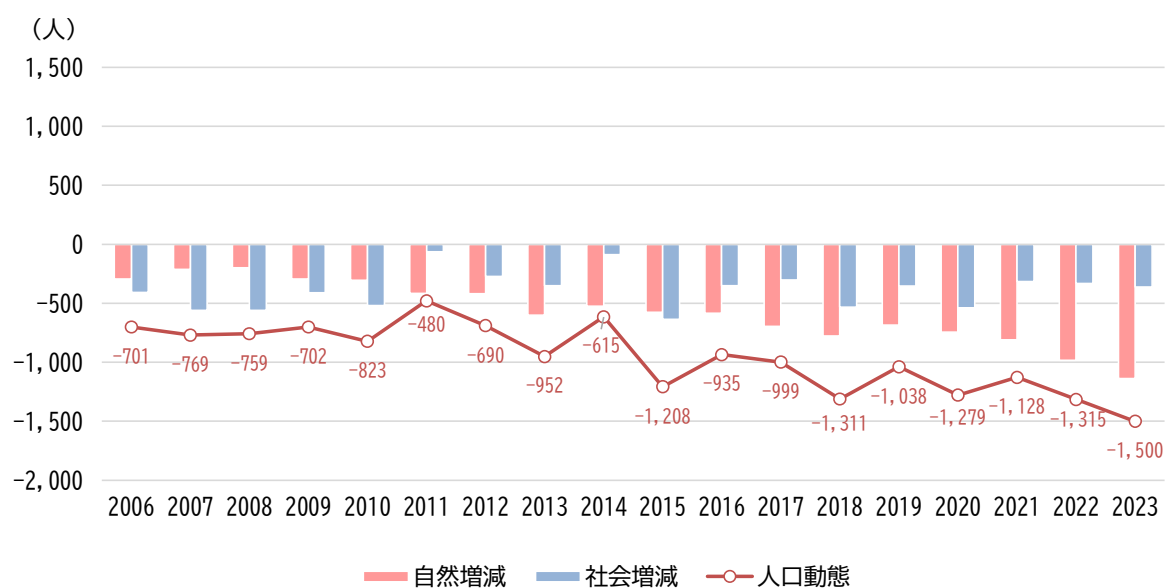


出典：総務省「国勢調査」

2-1-4 人口動態(自然増減(出生－死亡)・社会増減(転入－転出))

本市の人口動態について、減少傾向が拡大しており、直近の過去6年間は毎年1,000人を超える減少が続いています。近年の減少要因としては、自然増減による影響が大きく、死亡数の増加と出生数の減少がいずれも進行していることが背景にあります。社会増減は自然増減と比べて人口動態への影響が小さいものの、年によって変動が大きい傾向がみられます。

図表 5 人口動態（自然増減・社会増減）



出典：「三重県統計書」、「三重県人口・世帯の動き（月別人口調査結果）」

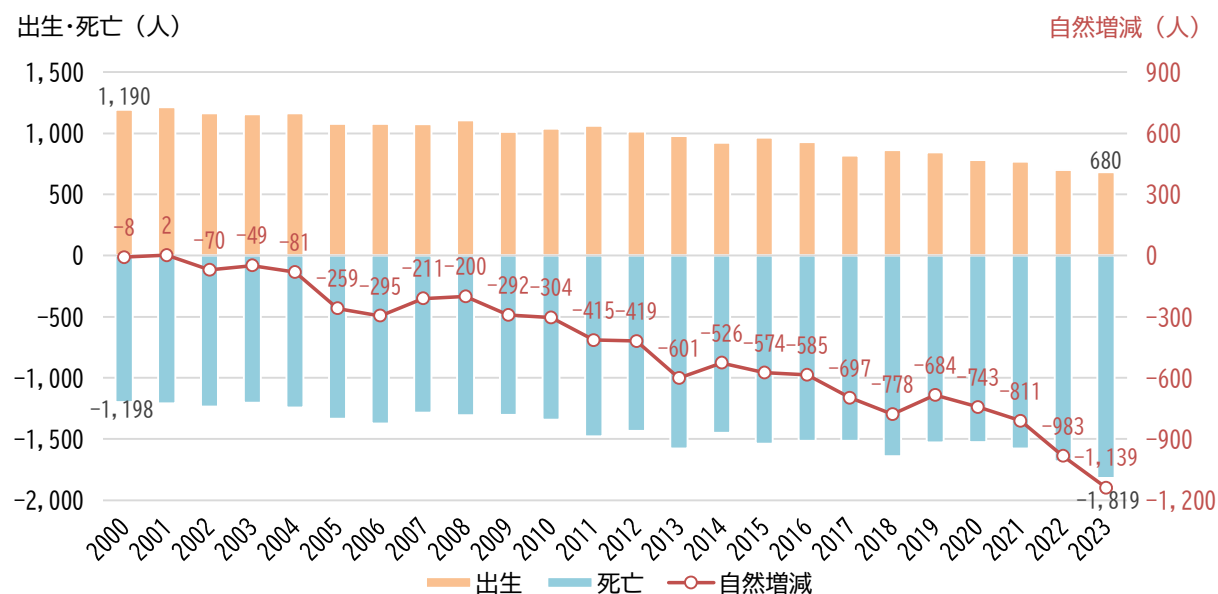
※表記年の期間は前年10月1日～9月30日

2-2 自然増減の現状分析

2-2-1 自然増減の推移

自然増減についてみると、2002 年以降は自然減が続いています。年による変動はみられるものの、減少傾向が徐々に拡大しています。その内訳をみると、出生数の減少と死亡数の増加がともに進行しています。

図表 6 自然増減の推移



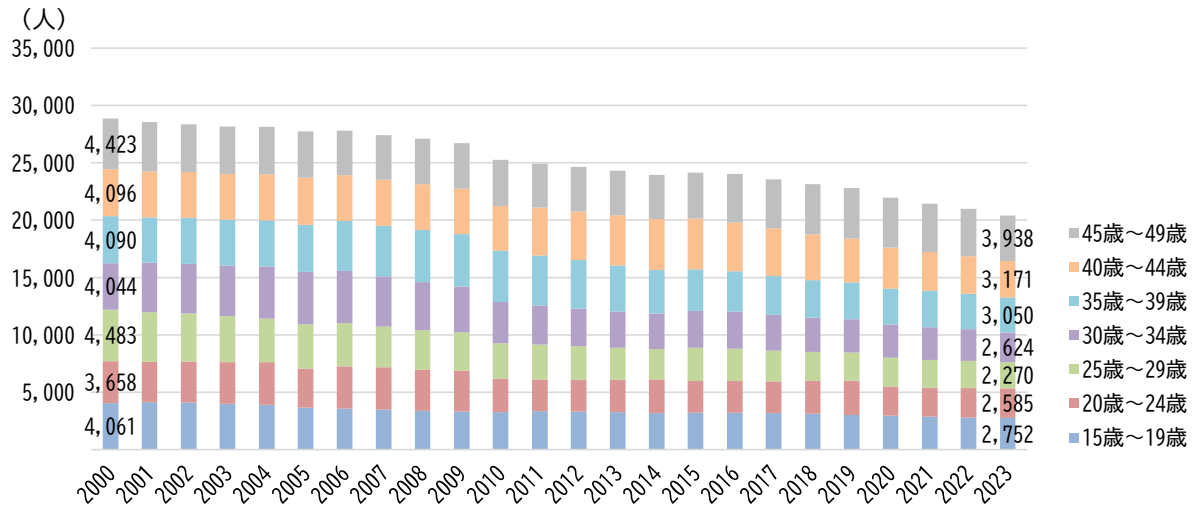
出典：「三重県統計書」、「三重県人口・世帯の動き（月別人口調査結果）」

※表記年の期間は前年 10 月 1 日～9 月 30 日

2-2-2 男女の年齢階級別(15歳～49歳)人口の推移

男女ともに同様の推移を辿っており、15歳～49歳の減少が続いています。男女とも25歳～34歳の減少率が大きくなっています。

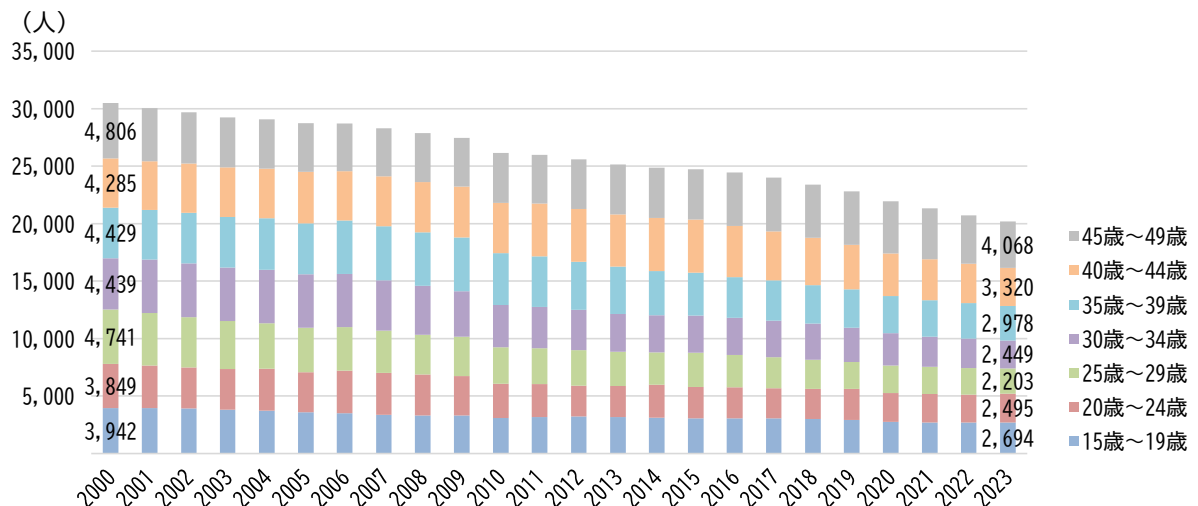
図表 7 男性の年齢階級別人口の推移



出典：「三重県の人口動態」、「三重県人口・世帯の動き（月別人口調査結果）」

※各年 10 月 1 日時点

図表 8 女性の年齢階級別人口の推移



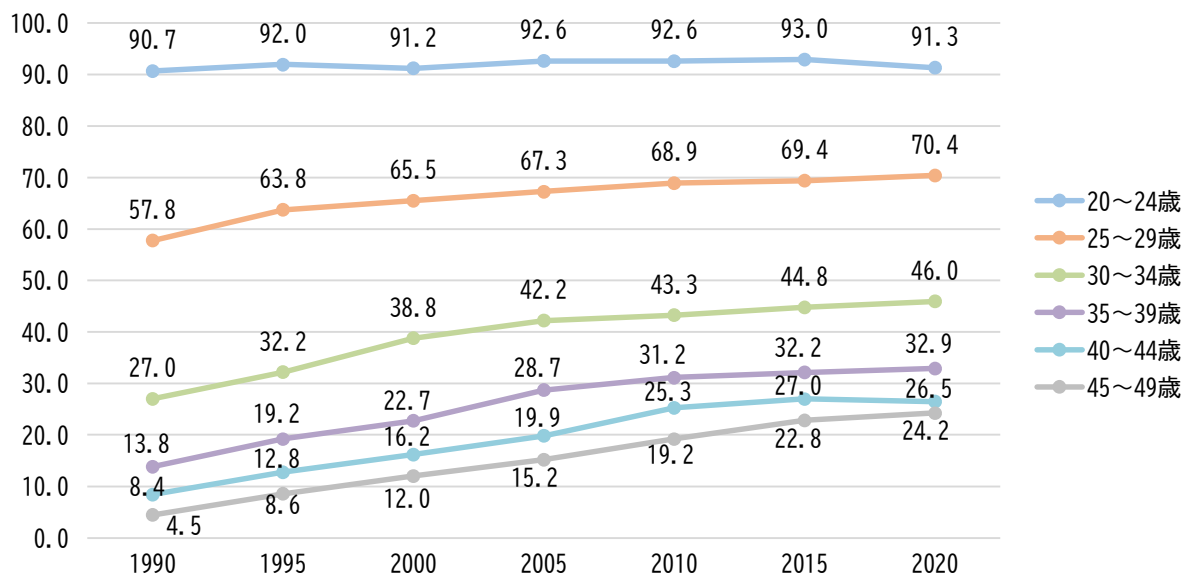
出典：「三重県の人口動態」、「三重県人口・世帯の動き（月別人口調査結果）」

※各年 10 月 1 日時点

2-2-3 未婚率の推移

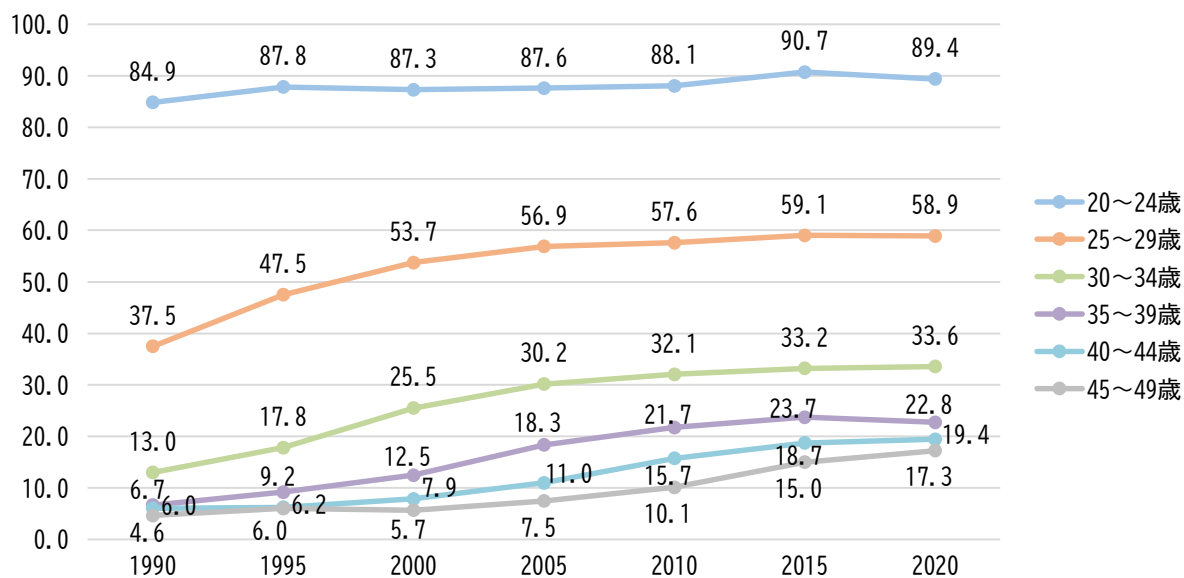
未婚率は男女ともに上昇しています。未婚率は男性がより高い傾向があります。

図表 9 未婚率の推移（男性）



出典：総務省「国勢調査」

図表 10 未婚率の推移（女性）



出典：総務省「国勢調査」

2-2-4 結婚に対する考え方・結婚を選択しない理由

結婚に対する考え方について、本市と全国を比較すると、「いずれ結婚するつもり」と回答した割合は、すべての年齢区分で全国よりも低くなっています。

また、結婚を選択しない理由として、「適当な相手にまだめぐり会わないから」の割合が最も高く 50.1%となっています。

図表 11 一生を通じた結婚に対する考え方

※「いずれ結婚するつもり」と回答した割合

		伊勢市	全国
全体		75.5%	80.9%
年代	20歳～24歳	85.9%	86.6%
	25歳～29歳	77.5%	84.4%
	30歳～34歳	70.3%	75.4%
	35歳～39歳	60.7%	69.1%

出典（伊勢市）：「伊勢市人口ビジョン及び地域の未来予測策定にかかるアンケート調査（市民）」（2024 年）

出典（全国）：国立社会保障・人口問題研究所「第 16 回出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）」（2021 年）

図表 12 結婚を選択しない理由（複数回答）

※「いずれ結婚するつもり」と回答した人のみ

		回答者数	結婚するに はまだ若 すぎるから	結婚する 必要を まだ感 じない から	今は、仕事 (または学 業)にうち こみたい から	今は、趣味 や娯楽を 楽しみたい から	独身の自由 さや気楽 さを失いた くないから	適当な相手 にまだめぐ り会わない から
全体		373	18.8%	18.0%	20.1%	22.8%	20.6%	50.1%
性別	男性	172	19.8%	18.0%	14.5%	21.5%	20.9%	49.4%
	女性	195	17.4%	16.9%	24.6%	24.1%	20.5%	51.3%
	回答しない	6	33.3%	50.0%	33.3%	16.7%	16.7%	33.3%
年代	20歳～24歳	134	47.0%	16.4%	32.8%	20.1%	9.0%	41.0%
	25歳～29歳	107	5.6%	17.8%	15.0%	29.9%	25.2%	43.0%
	30歳～34歳	78	1.3%	21.8%	11.5%	16.7%	28.2%	57.7%
	35歳～39歳	54	0.0%	16.7%	11.1%	24.1%	29.6%	75.9%
		回答者数	異性とうまく つき合えな いから	結婚資金が 足りないか ら	結婚生活の ための住居 のめどがた たないから	親や周囲が 結婚に同意 しない(だろ う)から	その他	
全体		373	14.5%	24.4%	7.5%	2.4%	5.4%	
性別	男性	172	19.2%	24.4%	6.4%	2.9%	6.4%	
	女性	195	10.8%	25.1%	8.7%	2.1%	4.6%	
	回答しない	6	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
年代	20歳～24歳	134	8.2%	26.9%	8.2%	2.2%	3.0%	
	25歳～29歳	107	15.9%	31.8%	7.5%	0.9%	6.5%	
	30歳～34歳	78	20.5%	16.7%	6.4%	1.3%	10.3%	
	35歳～39歳	54	18.5%	14.8%	7.4%	7.4%	1.9%	

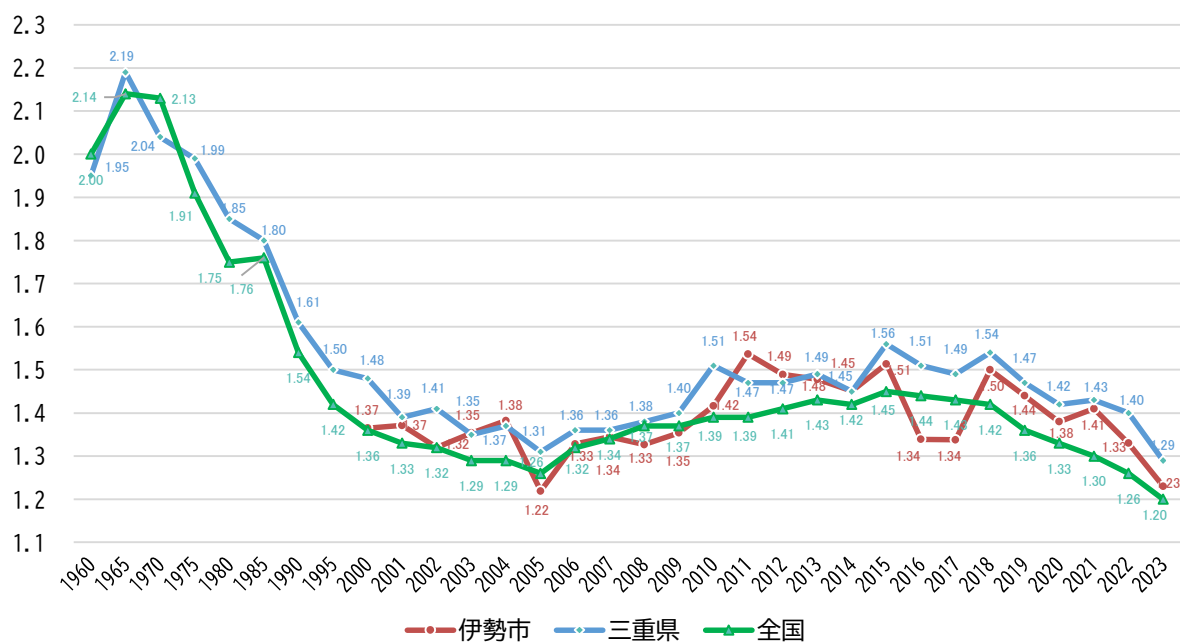
出典：「伊勢市人口ビジョン及び地域の未来予測策定にかかるアンケート調査（市民）」（2024 年）

※比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。そのため、単数回答の場合であっても、パーセントの合計が 100 にならないことがある。（以降のアンケートデータも同様）

2-2-5 合計特殊出生率の推移

本市の合計特殊出生率は全国や三重県と同様に 2006 年頃から上昇しており、年によって変動はあるものの、2010 年以降は全国よりもやや高い水準を維持してきました。しかし、近年は低下に転じるとともに、全国と三重県の間を推移しています。

図表 13 合計特殊出生率の推移



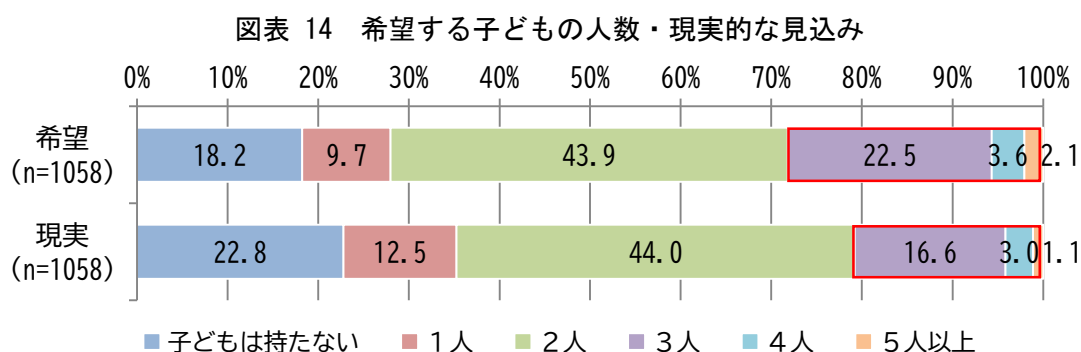
出典（伊勢市、三重県）：「三重県の人口動態」

出典（全国）：厚生労働省「人口動態調査」

2-2-6 希望する子どもの人数

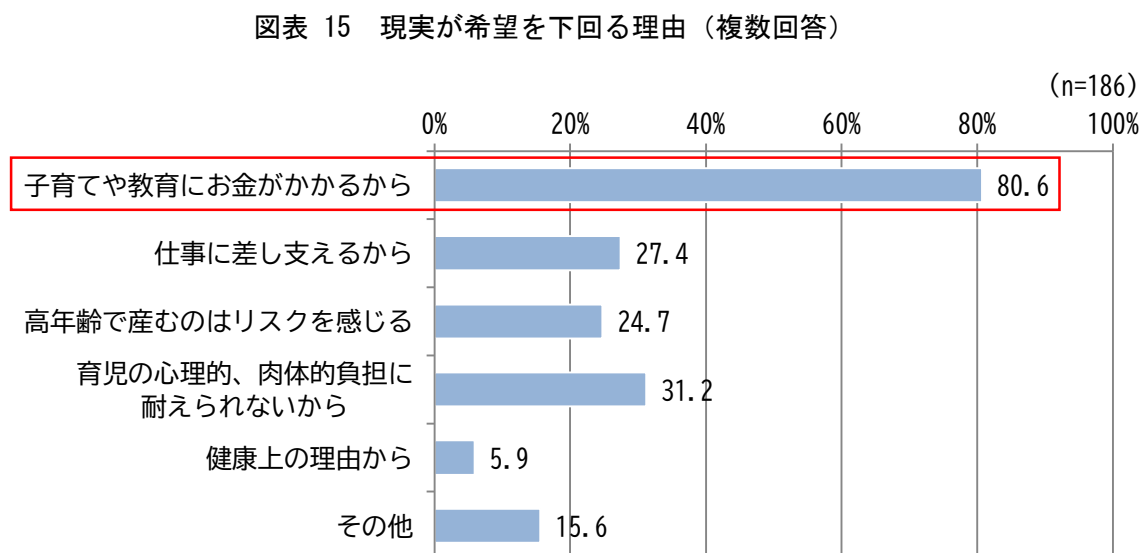
希望する子どもの人数・現実的な見込みについて聞いたところ、希望としては「3人」以上を合計すると28.2%、「子どもは持たない」は18.2%。現実的な見込みとしては「3人」以上が20.7%、「子どもは持たない」は22.8%となっています。また、希望する子どもの人数の平均値は1.90人、現実的な見込みの平均値は1.68人となっています。

現実が希望を下回る理由については、「子育てや教育にお金がかかるから」が80.6%と最も割合が高くなっています。平成27年に本市が実施した調査でも同様の結果がみられており、同じ状況が続いていることがうかがわれます。



出典：「伊勢市人口ビジョン及び地域の未来予測策定にかかるアンケート調査（市民）」（2024年）

※本設問の回答者は未婚者を含む



出典：「伊勢市人口ビジョン及び地域の未来予測策定にかかるアンケート調査（市民）」（2024年）

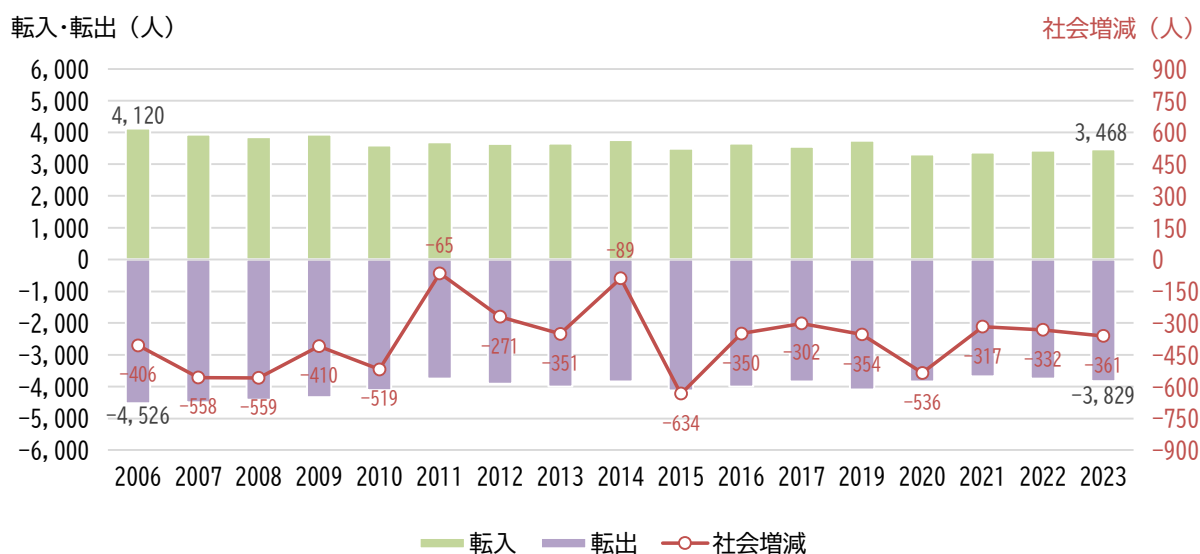
※本設問の回答者は未婚者を含む

2-3 社会増減の現状分析

2-3-1 社会増減の推移

社会増減についてみると、2006 年以降すべての年で転出超過となっています。前回式年遷宮（2013 年）を含む前後の 4 年間については、これまでの傾向と異なり、社会増減が抑制されています。

図表 16 社会増減の推移



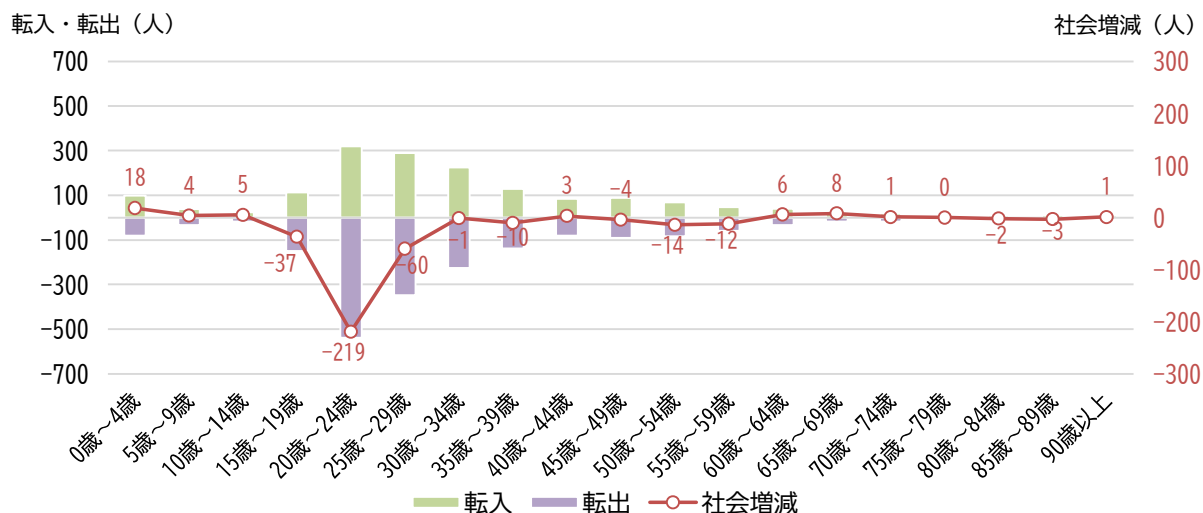
出典：「三重県統計書」

※表記年の期間は前年 10 月 1 日～9 月 30 日

2-3-2 年齢階級別の社会増減

年齢階級別の転入・転出の状況をみると、男女ともに進学・就職のタイミングに該当する「20歳～24歳」で大幅な転出超過となっています。「25歳～29歳」においても転出超過の傾向が続き、30歳代以降は概ね均衡します。

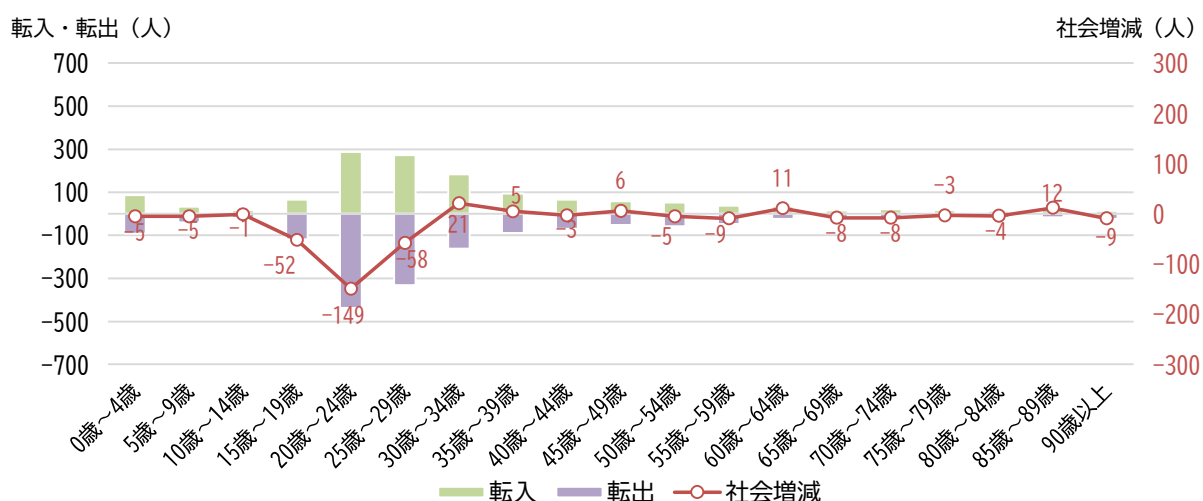
図表 17 年齢階級別の社会増減（男性）



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告 年報」（2023 年）

※表記年の期間は前年 10 月 1 日～9 月 30 日

図表 18 年齢階級別の社会増減（女性）



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告 年報」（2023 年）

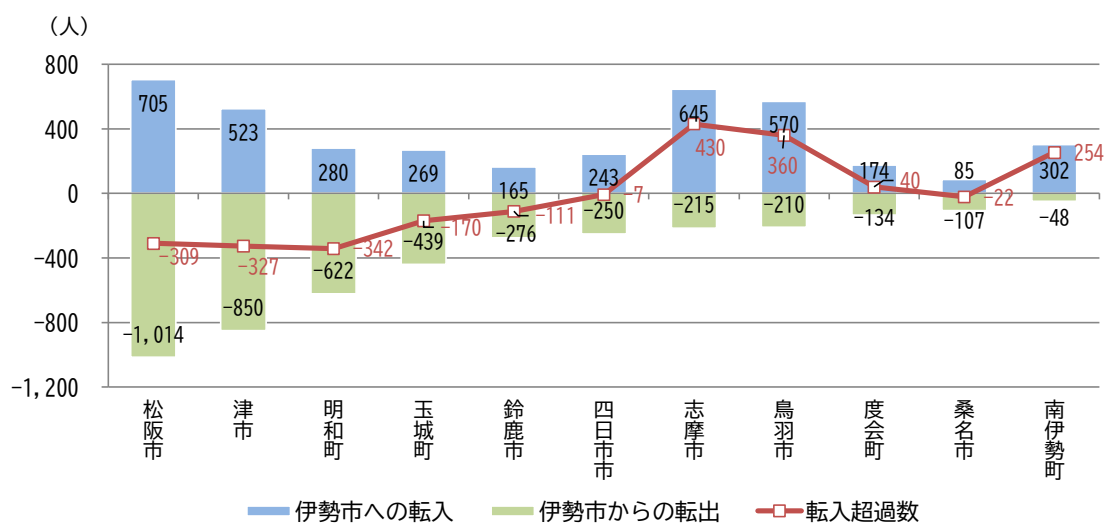
※表記年の期間は前年 10 月 1 日～9 月 30 日

2-3-3 転入元・転出先の地域

本市からの転出先としては、松阪市、津市、明和町、玉城町の順になっています。明和町に対しては 342 人の転出超過となっており、近隣市町で最も多くなっています。一方、本市への転入元としては松阪市、志摩市、鳥羽市、津市の順になっていますが、転入超過数でみると、志摩市、鳥羽市、南伊勢町が多くなっています。

愛知県、東京圏、大阪圏については、いずれも転出超過になっており、愛知県が最も多くなっています。

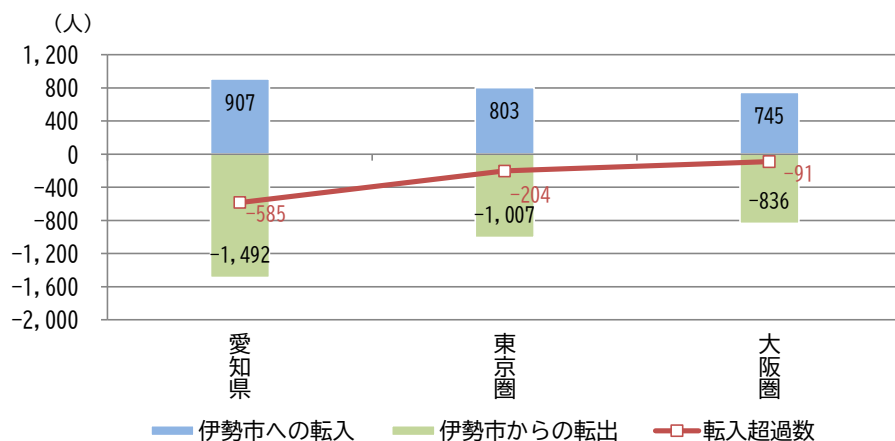
図表 19 転入元・転出先の地域（県内）



出典：総務省「国勢調査」（2020 年）

※ 5 年前の居住地に対する変化をもとにした集計

図表 20 転入元・転出先の地域（県外）



出典：総務省「国勢調査」（2020 年）

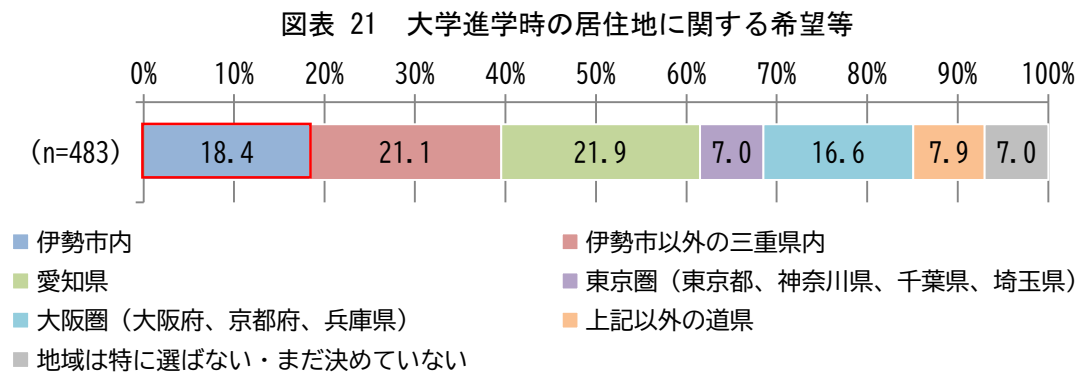
※ 5 年前の居住地に対する変化をもとにした集計

※ 東京圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）、大阪圏（大阪府、京都府、兵庫県）

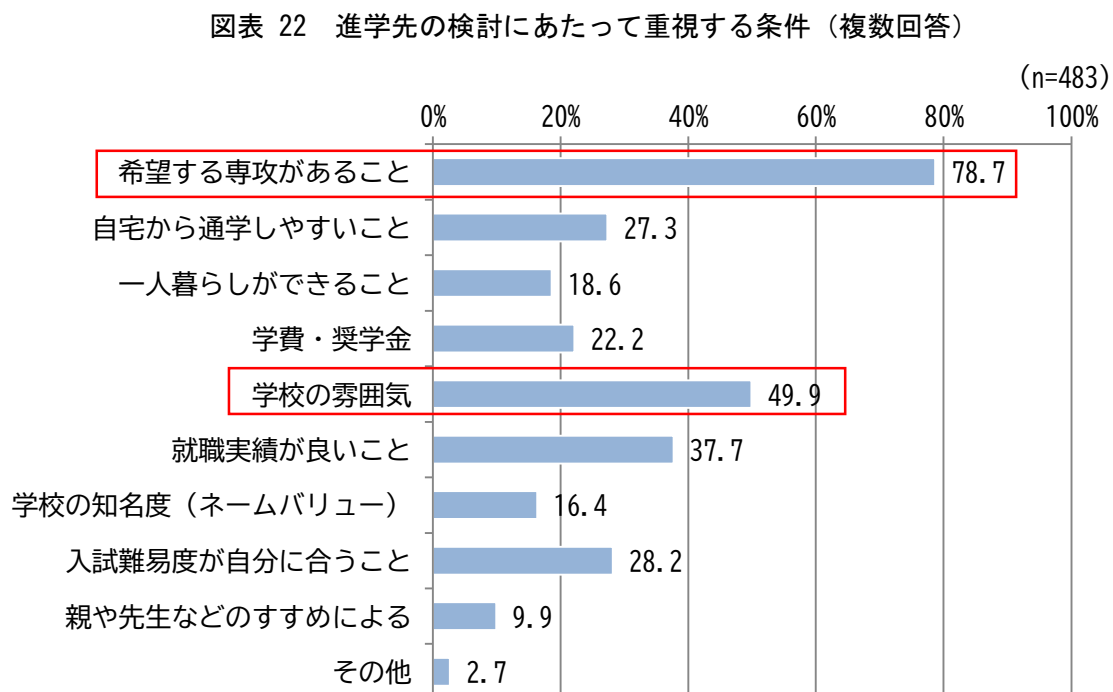
2-3-4 大学進学時の居住地に関する希望等

高校3年生に対するアンケートでは、進学時の居住地として希望する地域について、「伊勢市内」は18.4%であり、愛知県や東京圏等などの県外を合計すると53.4%となっています。

進学先の検討にあたっては「希望する専攻があること」や「学校の雰囲気」が重視されています。



出典：「伊勢市人口ビジョン及び地域の未来予測策定にかかるアンケート調査（高校生）」（2024 年）

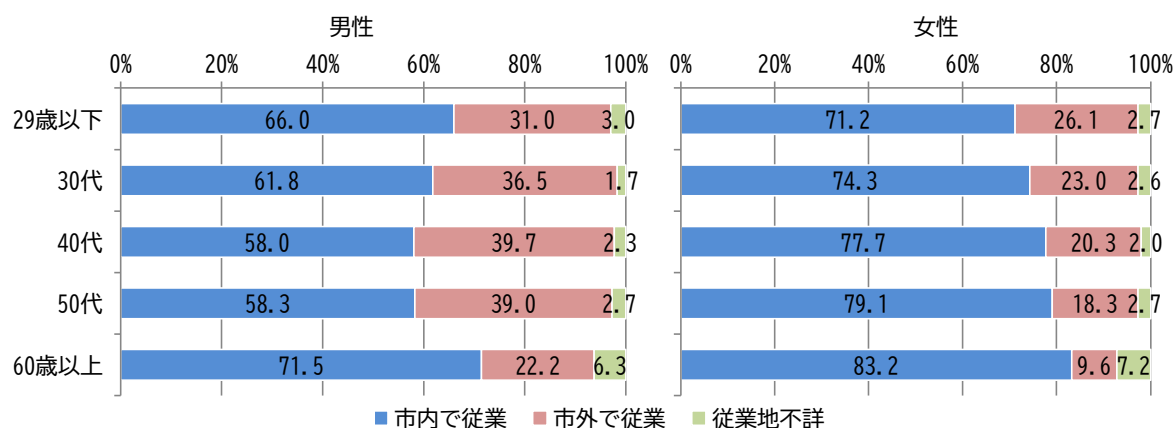


出典：「伊勢市人口ビジョン及び地域の未来予測策定にかかるアンケート調査（高校生）」（2024 年）

2-3-5 市内での従業状況

本市に居住する男性のうち、50歳代以下では30%～40%が市外で働いています。女性は男性と比べて市外で働く人の割合が低く、市内で働く人の割合が高くなっています。50歳代以下において、男性は年代が上がると市外で働く割合が高くなっています。一方、女性は年代が上がると市外で働く割合が低くなっています。

図表 23 市内での従業状況

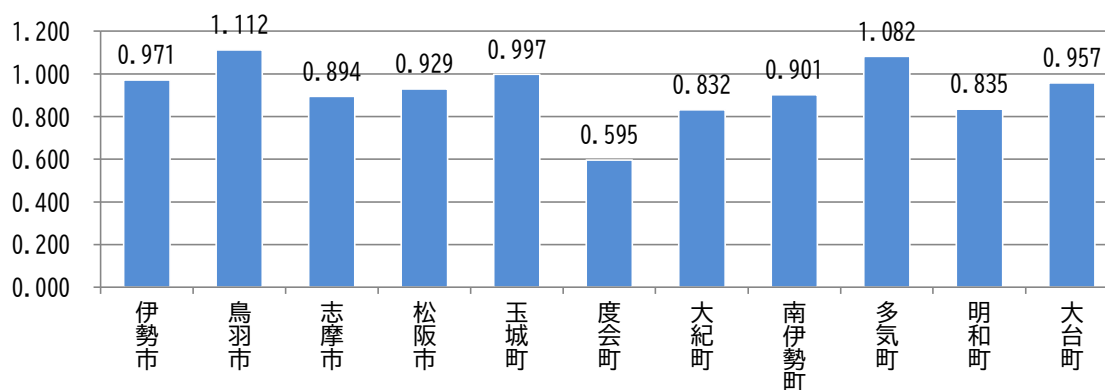


出典：総務省「国勢調査」（2020年）

2-3-6 就従比(従業者/就業者)

従業者（当該市町を勤務地としている人）と就業者（当該市町に居住する収入を伴う仕事をしている人）の割合をみると、本市の就従比は周辺市町と比較してやや高い水準にありますが、1を下回っており、市内に働きに来る人数よりも市外へ働きに行く人数の方が多い状況がうかがわれます。

図表 24 就従比（従業者/就業者）



出典：総務省「国勢調査」（2020年）

2-3-7 通勤先の地域

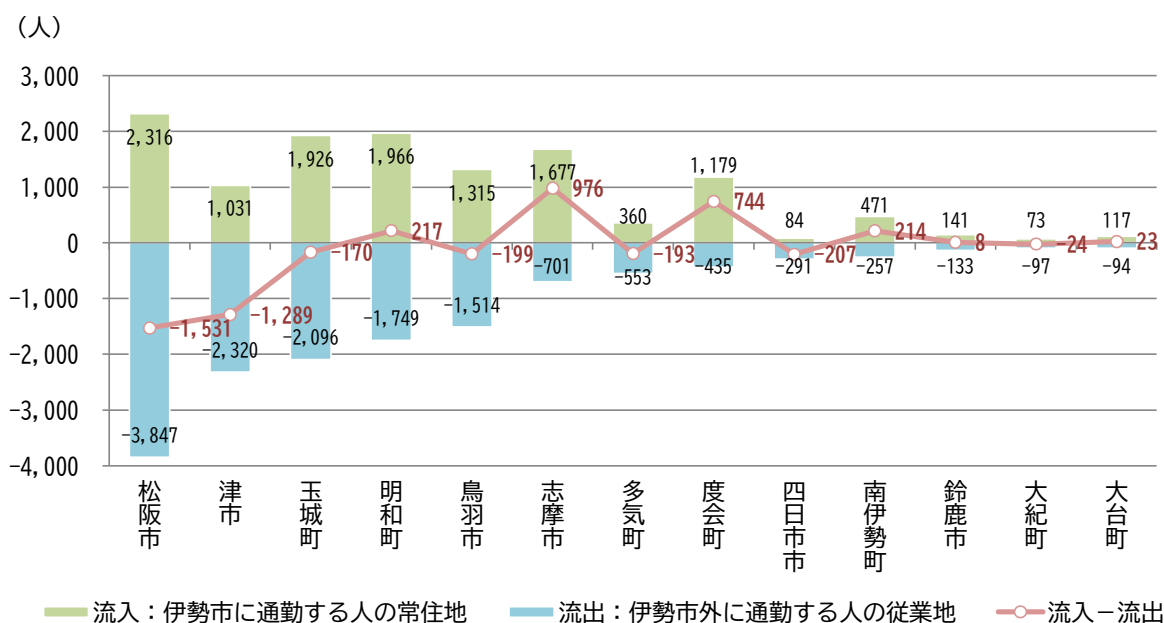
通勤における本市からの流出（市外に通勤する人の従業地）をみると、松阪市が3,847人で最も多く、津市と玉城町が2,000人、明和町と鳥羽市が1,000人を超えています。

一方、本市への流入（本市に通勤する人の常住地）については、松阪市が2,316人で最も多く、明和町と玉城町が1,900人、志摩市、鳥羽市、度会町、津市が1,000人を超えています。

流出超過となっているのは、松阪市が1,531人で最も多く、津市の1,289人と続いています。

流入超過となっているのは、志摩市が976人で最も多く、度会町の744人と続いています。

図表 25 通勤先の地域



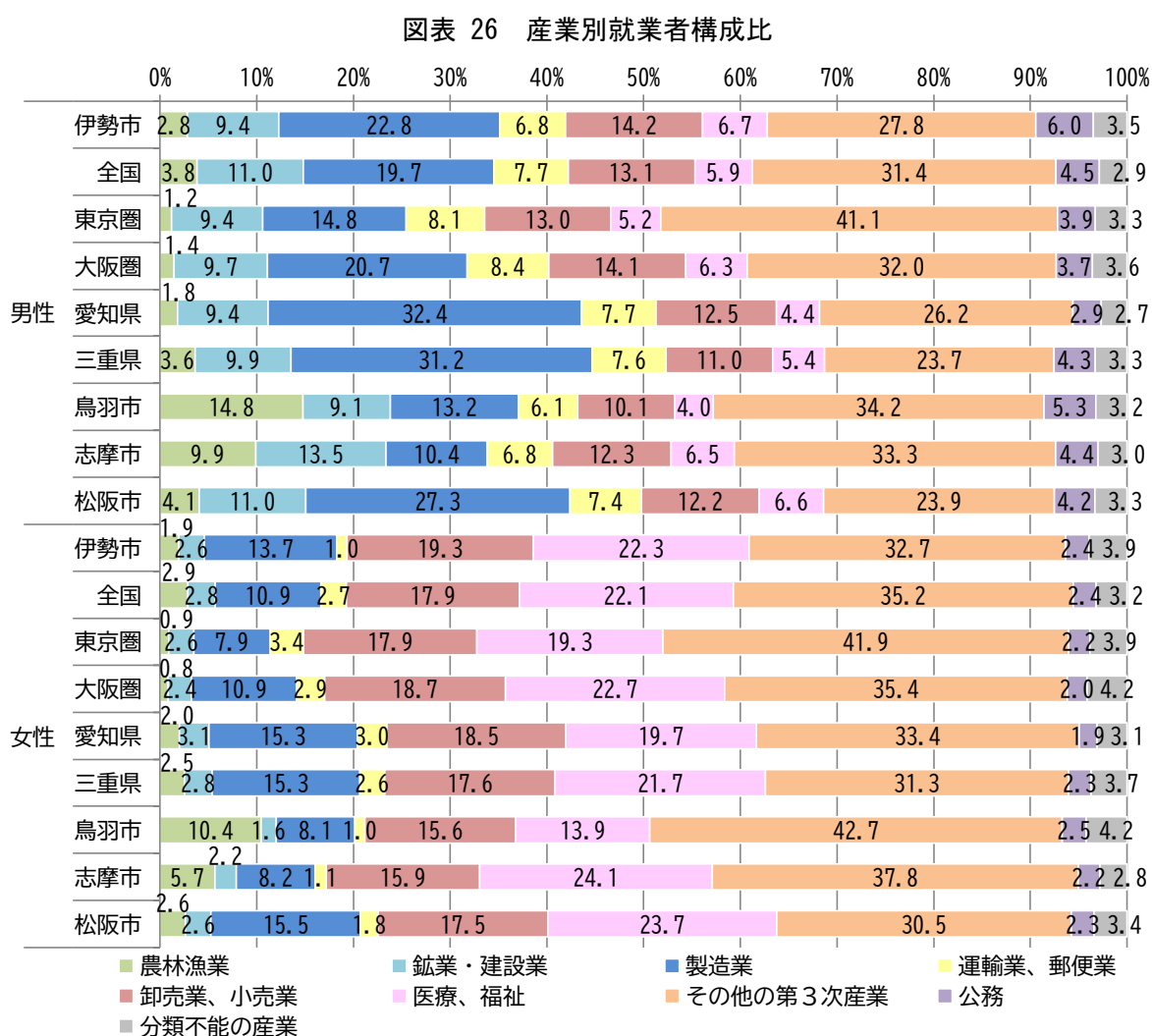
出典：総務省「国勢調査」（2020年）

2-3-8 産業別就業者構成比

本市の産業別就業者の割合について、男女により違いがみられます。男性は女性と比較して第2次産業（「鉱業・建設業」と製造業）の割合が15.9ポイント多くなっています。一方、女性は「卸売業、小売業」の割合が19.3%、「医療、福祉」が22.3%であり、男性の割合を上回っています。

全国や三重県、近隣市と比較すると、特に男性では鳥羽市や志摩市より製造業の割合が高いですが、松阪市や三重県よりは低くなっています。また、男女ともに全国、三重県、近隣市と比較して「卸売業、小売業」の割合が最も高くなっています。

東京圏や大阪圏などの都市部と比較すると、男女ともに「その他の第3次産業」の割合が低くなっています。



出典：総務省「国勢調査」（2020年）

※東京圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）、大阪圏（大阪府、京都府、兵庫県）

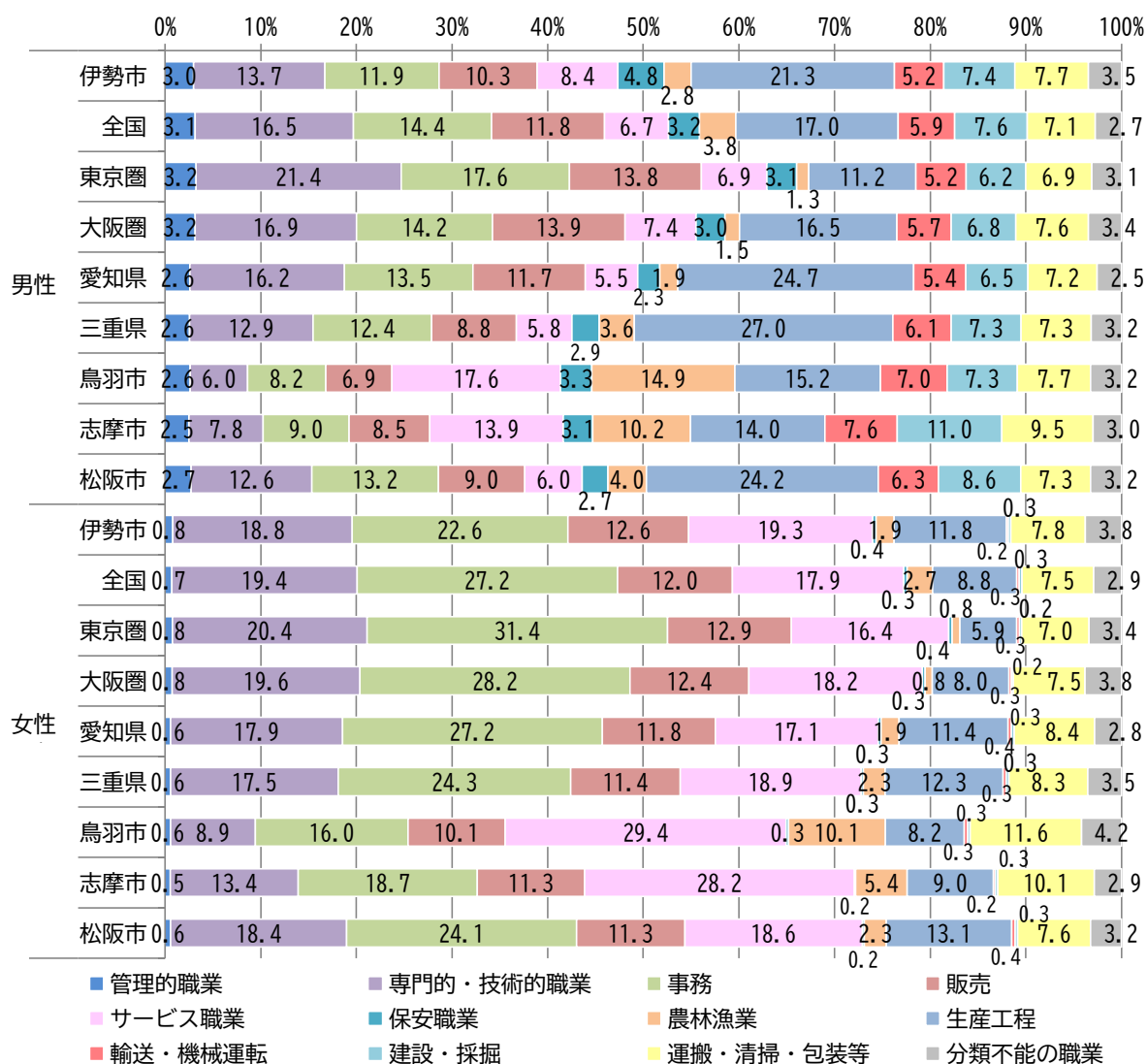
2-3-9 職業別就業者構成比

本市の職業別就業者の割合について、産業と同様に男女により違いがみられます。男性は生産工程、「輸送・機械運転」、「建設・採掘」、保安職業の割合が女性を上回っており、とりわけ「輸送・機械運転」、「建設・採掘」、保安職業に就く女性は極めて少なく、男性固有の職業になっています。一方、女性は事務、サービス職業、「専門的・技術的職業」の割合が男性を大きく上回り、この3つの職業のみで54%を占めています。

近隣市と比較すると、男性では鳥羽市や志摩市より生産工程の割合が高いですが、松阪市や三重県よりも低くなっています。また、男女ともに鳥羽市や志摩市と比較して、サービス職業の割合が低くなっています。

東京圏や大阪圏などの都市部と比較すると、男女ともに生産工程の割合が高く、特に女性では事務の割合が低くなっています。

図表 27 職業別就業者構成比



出典：総務省「国勢調査」（2020年）

※東京圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）、大阪圏（大阪府、京都府、兵庫県）

2-3-10 転出理由

転出理由について、男性では「転勤のため」、「就職や転職のため」の順で、女性では「結婚、同棲、妊娠・出産のため」、「就職や転職のため」の順で割合が高くなっています。「結婚、同棲、妊娠・出産のため」は30歳代で割合が高くなっています。

図表 28 転出理由

		回答者数	進学や転学のため	就職や転職のため	転勤のため	定年退職のため	結婚、同棲、妊娠・出産のため	離婚、別居のため
全体		204	6.4%	29.4%	27.0%	0.5%	18.1%	4.9%
性別	男性	113	6.2%	33.6%	38.1%	0.9%	6.2%	3.5%
	女性	88	6.8%	22.7%	13.6%	0.0%	34.1%	5.7%
	回答しない	3	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%
年代別	29歳以下	91	11.0%	49.5%	18.7%	0.0%	13.2%	2.2%
	30歳代	47	2.1%	19.1%	23.4%	0.0%	38.3%	4.3%
	40歳代	28	0.0%	10.7%	57.1%	0.0%	21.4%	3.6%
	50歳代	25	8.0%	8.0%	44.0%	0.0%	4.0%	12.0%
	60歳以上	13	0.0%	7.7%	0.0%	7.7%	0.0%	15.4%
		回答者数	持ち家購入のため	自身・配偶者の家業を継ぐ、家族・親族の介護のため	親の都合のため（親の引越しに帯同した）	伊勢市から転出することが目的だった	その他	
全体		204	6.4%	1.0%	0.0%	2.0%	4.4%	
性別	男性	113	5.3%	0.9%	0.0%	2.7%	2.7%	
	女性	88	8.0%	1.1%	0.0%	1.1%	6.8%	
	回答しない	3	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
年代別	29歳以下	91	3.3%	0.0%	0.0%	1.1%	1.1%	
	30歳代	47	10.6%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	
	40歳代	28	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%	3.6%	
	50歳代	25	8.0%	0.0%	0.0%	4.0%	12.0%	
	60歳以上	13	15.4%	15.4%	0.0%	15.4%	23.1%	

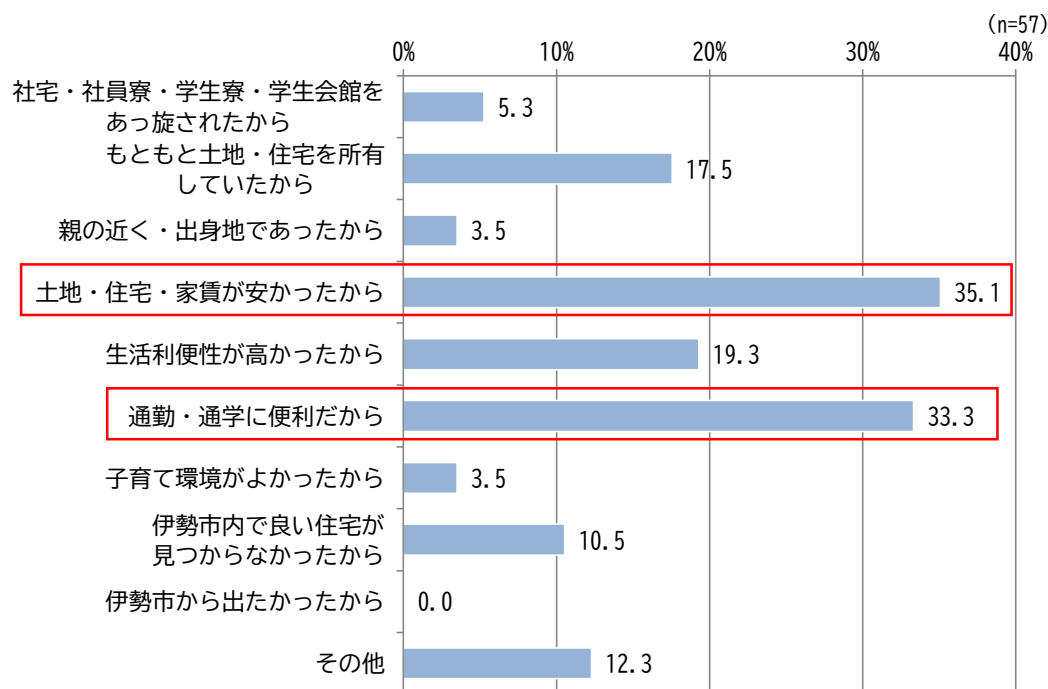
出典：「伊勢市人口ビジョン及び地域の未来予測策定にかかるアンケート調査（転出者）」（2024年）

2-3-11 居住地として近隣市町を選んだ理由

居住地として近隣市町を選んだ理由は、「土地・住宅・家賃が安かったから」と「通勤・通学に便利だから」の割合が高くなっています。

また、近隣市町に転出した人のうち 36.9%は「伊勢市内でも住宅を探した」と回答しています。

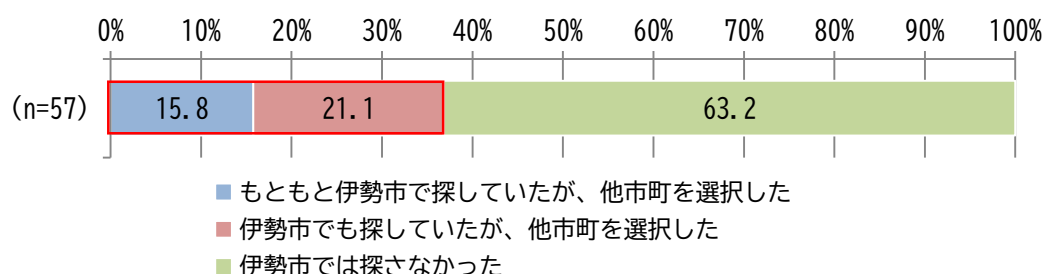
図表 29 他市町の住宅を選択した理由（複数回答）



出典：「伊勢市人口ビジョン及び地域の未来予測策定にかかるアンケート調査（転出者）」（2024 年）

※転出先が、津市、松阪市、多気町、明和町、大台町、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町の人のみ回答

図表 30 伊勢市内でも住宅を探したか



出典：「伊勢市人口ビジョン及び地域の未来予測策定にかかるアンケート調査（転出者）」（2024 年）

※転出先が、津市、松阪市、多気町、明和町、大台町、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町の人のみ回答

2-3-12 職業選択上の地理的制約

希望する仕事を選択するうえで、伊勢市に住むことが「制約になった」と回答した人は 33.9% となっています。男女別でみると、女性では男性と比べて「制約になった」と回答した割合が 15.2 ポイント高くなっています。

図表 31 希望する仕事を選択するうえで、伊勢市に住むことが制約になったか

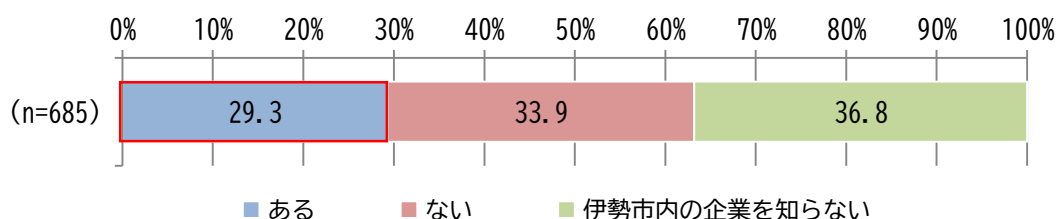
		回答者数	制約になった	制約にはならなかった
全体		218	33.9%	66.1%
性別	男性	78	24.4%	75.6%
	女性	134	39.6%	60.4%
	回答しない	6	33.3%	66.7%
年代	20歳～24歳	30	36.7%	63.3%
	25歳～29歳	56	42.9%	57.1%
	30歳～34歳	52	32.7%	67.3%
	35歳～39歳	80	27.5%	72.5%

出典：「伊勢市人口ビジョン及び地域の未来予測策定にかかるアンケート調査（市民）」（2024 年）

2-3-13 就職したい企業の有無

高校 3 年生に対するアンケートでは、将来就職したい企業が伊勢市内に「ある」と回答した人は 29.3% となっており、「ない」や「伊勢市内の企業を知らない」と回答した割合が 70.7% となっています。

図表 32 就職したいと思う企業が伊勢市内にあるか

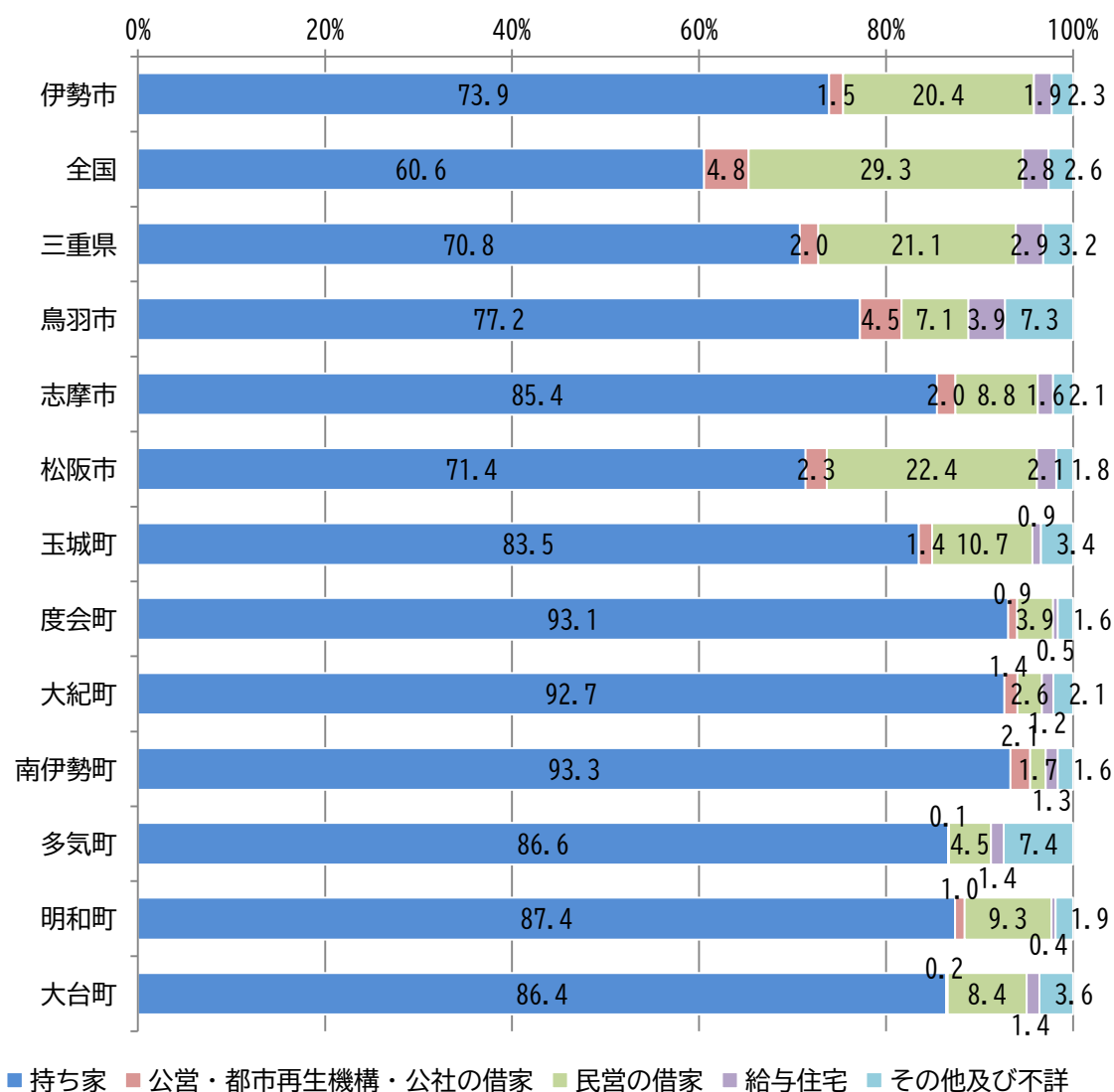


出典：「伊勢市人口ビジョン及び地域の未来予測策定にかかるアンケート調査（高校生）」（2024 年）

2-3-14 住宅の種類別割合

本市の一般世帯が居住する住宅について、73.9%は持ち家であり、民営の借家は20.4%となっています。全国と比較すると、持ち家の割合が高く、民営の借家の割合は低いですが、三重県とは同等の割合となっています。近隣市と比較すると、松阪市と構成が近似していますが、鳥羽市や志摩市に比べて民営の借家の割合が高くなっています。近隣の町の多くは民営の借家の割合が5%を下回っていますが、本市に隣接する玉城町や明和町ではやや高くなっています。

図表 33 住宅の種類別割合



出典：総務省「国勢調査」（2020年）

2-3-15 転入理由

転入理由としては、「自分の仕事の都合（就職・転職）」、「結婚・出産・子育てのため」の順で割合が高くなっています。男女別でみると、男性では女性に比べて「自分の仕事の都合（就職・転職）」、「自分の仕事の都合（転勤）」、「生活環境を良くするため」の割合が高く、女性では男性に比べて「結婚・出産・子育てのため」、「配偶者の仕事の都合（就職・転職）」の割合が高くなっています。また、Uターンでは「自分の仕事の都合（就職・転職）」、Iターン（県内）では「結婚・出産・子育てのため」の割合が最も高くなっています。

図表 34 伊勢市に転入した理由（複数回答）

		回答者数	自分の仕事の都合（就職・転職）	自分の仕事の都合（転勤）	親の仕事の都合	配偶者の仕事の都合（就職・転職）	配偶者の仕事の都合（転勤）	自分の学校の都合（進学・転学など）
全体		669	39.0%	7.8%	8.1%	8.4%	2.4%	6.6%
性別	男性	278	50.0%	12.2%	9.0%	3.2%	0.4%	8.3%
	女性	383	31.1%	4.7%	7.6%	12.3%	3.9%	5.5%
	回答しない	8	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年代	20歳～24歳	70	34.3%	2.9%	15.7%	2.9%	0.0%	21.4%
	25歳～29歳	129	51.2%	6.2%	12.4%	6.2%	0.8%	7.0%
	30歳～34歳	192	36.5%	9.4%	4.7%	7.3%	2.6%	5.7%
	35歳～39歳	278	36.3%	8.6%	6.5%	11.5%	3.6%	3.2%
居住経緯	Uターン	293	47.4%	6.5%	7.5%	3.4%	1.0%	10.2%
	Iターン（県内）	215	35.8%	5.1%	8.4%	12.1%	2.3%	2.3%
	Iターン（県外）	161	28.0%	13.7%	8.7%	12.4%	5.0%	5.6%
		回答者数	子どもの学校の都合（進学・転学など）	結婚・出産・子育てのため	住居を購入するため	家族・親族の介護のため	生活環境を良くするため	その他
全体		669	1.5%	25.6%	9.4%	2.8%	9.1%	7.6%
性別	男性	278	1.1%	15.5%	6.1%	2.9%	12.6%	6.5%
	女性	383	1.8%	32.9%	11.5%	2.9%	6.5%	8.6%
	回答しない	8	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	12.5%	0.0%
年代	20歳～24歳	70	1.4%	7.1%	5.7%	2.9%	8.6%	15.7%
	25歳～29歳	129	0.8%	17.1%	5.4%	1.6%	11.6%	7.8%
	30歳～34歳	192	1.0%	29.7%	8.9%	3.6%	11.5%	3.6%
	35歳～39歳	278	2.2%	31.3%	12.6%	2.9%	6.5%	8.3%
居住経緯	Uターン	293	1.7%	14.0%	8.9%	3.4%	10.2%	11.3%
	Iターン（県内）	215	1.4%	39.5%	12.1%	2.3%	10.2%	5.1%
	Iターン（県外）	161	1.2%	28.0%	6.8%	2.5%	5.6%	4.3%

出典：「伊勢市人口ビジョン及び地域の未来予測策定にかかるアンケート調査（市民）」（2024年）

2-3-16 伊勢市での生活の魅力

伊勢市での生活の魅力は、性別や年代に関わらず「自然が豊か」や「文化・伝統・歴史がある」の割合が高くなっています。

居住経緯別でも概ね同様の傾向となっていますが、Iターン（県内）では「子育て環境が良い」の割合がやや高くなっています。また、「文化・伝統・歴史がある」の割合は、転出なしやIターン（県内）よりも「UターンやIターン（県外）」の割合が高くなっています。

図表 35 伊勢市での生活の魅力（複数回答）

	回答者数	市内の公共交通が充実している	市外へのアクセスが良い	市内から通学可能な高校が多い	市内から通勤可能な圏域に働く場が多い	子育て環境が良い	習い事・教育環境が良い	災害の心配が少ない	治安が良い・事故の心配がない	医療・福祉サービスが充実している	公共施設が充実している
全体	1058	7.2%	13.0%	14.0%	6.0%	13.3%	3.5%	10.1%	30.9%	11.8%	5.3%
性別											
男性	434	8.8%	12.4%	14.3%	6.2%	11.5%	3.5%	12.7%	32.9%	13.1%	5.8%
女性	606	6.1%	13.7%	14.2%	5.9%	14.9%	3.6%	8.6%	29.9%	11.2%	5.1%
回答しない	18	5.6%	5.6%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%
年代											
20歳～24歳	163	11.7%	10.4%	17.2%	4.3%	9.8%	3.7%	12.3%	27.0%	10.4%	4.3%
25歳～29歳	214	6.1%	12.6%	13.1%	7.0%	7.0%	1.4%	9.3%	29.4%	10.3%	4.2%
30歳～34歳	277	6.5%	12.3%	12.3%	5.1%	16.6%	2.5%	7.2%	38.6%	11.6%	5.8%
35歳～39歳	404	6.4%	14.9%	14.4%	6.7%	15.8%	5.2%	11.6%	28.0%	13.4%	5.9%
居住経緯											
転出なし	389	7.7%	14.7%	14.1%	4.6%	8.2%	2.1%	10.8%	35.0%	9.0%	3.6%
Uターン	293	5.8%	10.2%	18.4%	8.2%	12.6%	4.1%	13.0%	34.1%	11.3%	6.1%
Iターン（県内）	215	10.7%	14.9%	13.5%	7.4%	20.9%	6.5%	7.9%	24.7%	15.8%	6.0%
Iターン（県外）	161	3.7%	11.8%	6.2%	3.1%	16.8%	1.9%	6.2%	23.6%	14.3%	6.8%
	回答者数	自然が豊か	まちに活気がある	買い物に便利	ご近所づきあいが心地よい	親しい友人・知人が近くにいる	文化・伝統・歴史がある	物価・家賃が安い	素敵な店が多い・好きな店がある	その他	特にない
全体	1058	43.6%	3.9%	16.4%	7.9%	28.3%	45.7%	11.0%	10.4%	1.5%	8.1%
性別											
男性	434	42.2%	4.6%	15.2%	7.4%	22.8%	49.3%	12.7%	8.8%	1.4%	8.5%
女性	606	44.7%	3.5%	17.2%	8.4%	32.3%	43.6%	9.7%	11.6%	1.5%	7.6%
回答しない	18	38.9%	0.0%	22.2%	5.6%	22.2%	27.8%	11.1%	11.1%	5.6%	16.7%
年代											
20歳～24歳	163	52.1%	5.5%	12.3%	7.4%	38.0%	48.5%	8.6%	12.3%	1.8%	2.5%
25歳～29歳	214	36.0%	4.2%	15.4%	6.1%	27.1%	45.3%	12.1%	11.7%	0.5%	10.3%
30歳～34歳	277	43.7%	3.6%	17.0%	7.2%	25.3%	46.9%	13.7%	10.8%	1.8%	9.4%
35歳～39歳	404	44.1%	3.2%	18.3%	9.7%	27.0%	43.8%	9.4%	8.7%	1.7%	8.4%
居住経緯											
転出なし	389	42.2%	4.1%	15.2%	9.8%	36.8%	40.9%	8.7%	9.3%	1.5%	8.2%
Uターン	293	47.8%	3.4%	14.7%	6.1%	33.4%	50.2%	11.9%	12.6%	1.7%	6.5%
Iターン（県内）	215	35.8%	4.2%	20.9%	6.5%	19.5%	42.8%	10.2%	10.2%	0.9%	8.8%
Iターン（県外）	161	49.7%	3.7%	16.8%	8.7%	9.9%	52.8%	15.5%	9.3%	1.9%	9.9%

出典：「伊勢市人口ビジョン及び地域の未来予測策定にかかるアンケート調査（市民）」（2024年）

2-3-17 愛着・誇り

伊勢市に対する愛着と誇りを0点～10点で聞いたところ、8点以上の割合は愛着では56.3%、誇りでは50.9%となり、ともに半数を超えています。

居住経緯別にみると、これまで本市から転出していない人やUターンした人は、愛着と誇りともに8点以上の割合が高くなっています。

図表 36 伊勢市に対する愛着（10点満点）

		回答者数	8点以上	5～7点	4点以下
全体		1058	56.3%	34.4%	9.3%
性別	男性	434	57.1%	31.3%	11.5%
	女性	606	56.3%	36.6%	7.1%
	回答しない	18	38.9%	33.3%	27.8%
年代	20歳～24歳	163	60.7%	30.1%	9.2%
	25歳～29歳	214	55.1%	37.9%	7.0%
	30歳～34歳	277	54.5%	36.1%	9.4%
	35歳～39歳	404	56.4%	33.2%	10.4%
居住経緯	転出なし	389	63.2%	28.5%	8.2%
	Uターン	293	65.5%	29.7%	4.8%
	Iターン(県内)	215	42.8%	48.4%	8.8%
	Iターン(県外)	161	41.0%	38.5%	20.5%

出典：「伊勢市人口ビジョン及び地域の未来予測策定にかかるアンケート調査（市民）」（2024年）

図表 37 伊勢市に対する誇り（10点満点）

		回答者数	8点以上	5～7点	4点以下
全体		1058	50.9%	36.0%	13.1%
性別	男性	434	50.0%	33.6%	16.4%
	女性	606	51.7%	38.1%	10.2%
	回答しない	18	44.4%	22.2%	33.3%
年代	20歳～24歳	163	57.7%	30.1%	12.3%
	25歳～29歳	214	54.2%	35.5%	10.3%
	30歳～34歳	277	49.1%	36.8%	14.1%
	35歳～39歳	404	47.5%	38.1%	14.4%
居住経緯	転出なし	389	55.3%	31.6%	13.1%
	Uターン	293	58.4%	32.8%	8.9%
	Iターン(県内)	215	42.3%	47.9%	9.8%
	Iターン(県外)	161	37.9%	36.6%	25.5%

出典：「伊勢市人口ビジョン及び地域の未来予測策定にかかるアンケート調査（市民）」（2024年）

2-4 人口減少にいたる要因

2-4-1 自然増減に関する要因

要因	本市のこれまでの状況
①高齢者の人数	・後期高齢者は増加傾向が続いている。(図表 3) ・死亡数が増加している。(図表 6)
②子どもを産む世代の女性の人数	・15 歳～49 歳の人口減少が続いている。25 歳～34 歳の女性人口の減少率が大きくなっている。(図表 8)
③未婚率	・年齢階級別の未婚率は男女ともに上昇している。(図表 9,10) ・結婚の意向があっても実現にいたらない理由としては、「適当な相手にまだめぐり会わないから」が最も高い割合となっている。(図表 12)
④子どもを持つことを選択しない人	・現実的な見込みが希望する子どもの数を下回る理由としては、「子育てや教育にお金がかかるから」が最も高い割合となっている。(図表 14,15)

2-4-2 社会増減に関する要因

要因	本市のこれまでの状況
①進学時の転出	・進学時の移動が含まれる 15 歳～19 歳は転出も多く、転出超過となっている。(図表 17,18) ・高校 3 年生における進学時の居住地の希望では、「伊勢市内」は 18.4%となっている。(図表 21)
②就職時の転出	・20 歳～24 歳は、他の年代と比べて最も転出数が多く、転出超過となっている。(図表 17,18) ・本市の就従比は 1 を下回っており、市内に働きに来る人数よりも市外へ働きに行く人数の方が多い状況となっている。(図表 24) ・東京圏などの都市部と比較すると、男女ともに「その他の第 3 次産業」の割合が低く、特に女性では事務の割合が低くなっている。(図表 26,27) ・転出理由について、男性では「転勤のため」、「就職や転職のため」の順で、女性では「結婚、同棲、妊娠・出産のため」、「就職や転職のため」の順で割合が高くなっている。(図表 28) ・希望する仕事を選択するうえで、女性では男性と比べて伊勢市に住むことが「制約になった」と回答した割合が高くなっている。(図表 31) ・「伊勢市内の企業を知らない」と回答した高校生の割合が 70.7%となっている。(図表 32)
③住宅購入を機とした転出	・居住地として近隣市町を選んだ理由は、「土地・住宅・家賃が安かったから」と「通勤・通学に便利だから」の割合が高くなっており、そのうち 36.9%は「伊勢市内でも住宅を探した」と回答している。(図表 29,30)
④観光等に関連する転入	・式年遷宮時の人口は、社会増減が改善する傾向がみられる。(図表 16) ・生活の魅力は、性別や年代に関わらず「自然が豊か」や「文化・伝統・歴史がある」の割合が高くなっている。(図表 35) ・伊勢市に対する愛着と誇り 8 点以上の割合は愛着では 56.3%、誇りでは 50.9%となり、ともに半数を超えている。(図表 36,37)

第3章 将来人口の推計

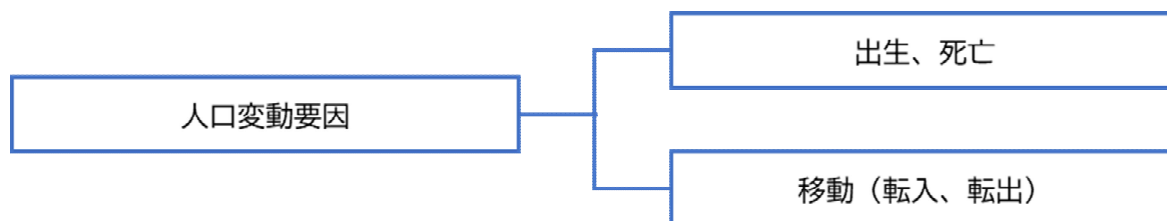
3-1 将来人口の推計方法

3-1-1 推計方法

本推計ではコーホート要因法を採用し、男女別・年齢5歳階級別人口に基づく5年ごとの人口を算出しました。

人口推計におけるコーホートとは、同年に出生した集団のことです。コーホート要因法とは、ある年の男女別コーホートごとの時間変化（加齢）に伴う変化を、「出生」「死亡」「移動（転入・転出）」という人口の変動要因に分けて、それぞれの変化の傾向ごとに将来の動向を算出する方法です。

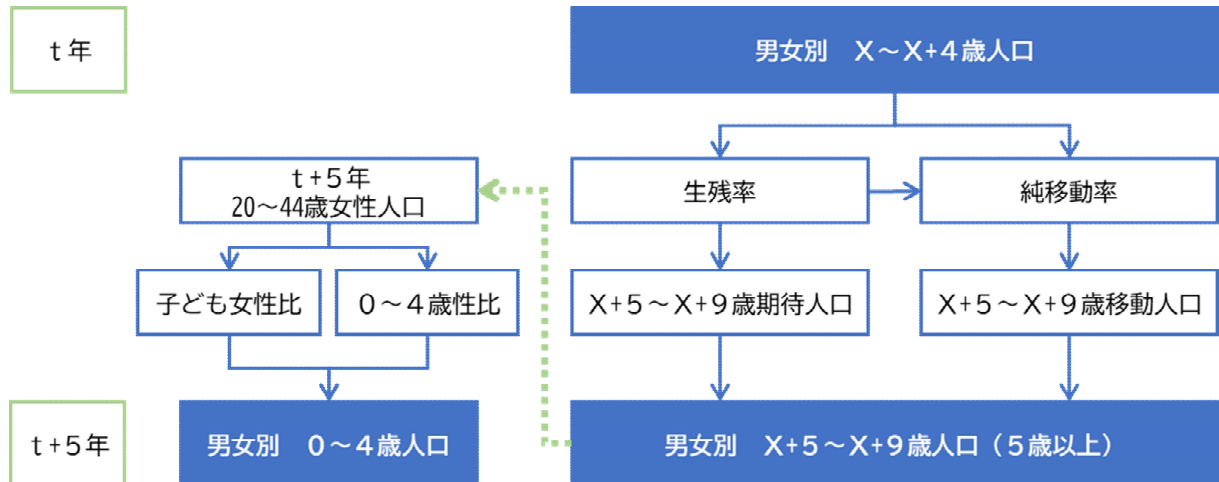
図表 38 人口変動要因



図表 39 人口推計の手順

ステップ1	推計の出発地点となる基準人口を定める。
↓	
ステップ2	男女別・年齢5歳階級別に t 年～ $t+5$ 年間の生残率及び純移動率をそれぞれ仮定する。
↓	
ステップ3	仮定した生残率と純移動率をもとに、 $t+5$ 年における男女別・年齢5歳階級別の人口（5歳以上）を算出する。
↓	
ステップ4	t 年の子ども女性比（20歳～44歳の女性人口に対する0歳～4歳人口の割合）を仮定し、 t 年の20歳～44歳の女性推計人口から0歳～4歳人口を計算する。
↓	
ステップ5	t 年の0歳～4歳人口を t 年の0歳～4歳性比を用いて、男性と女性に振り分ける。
↓	
ステップ6	t 年における男女別・年齢5歳階級別の人口（ステップ3）と0歳～4歳人口（ステップ5）の和を取り、 t 年における将来推計人口とする。

図表 40 人口推計フロー図



3-1-2 利用データ(基準値)及び設定条件

(1)基準人口

総務省「令和2年国勢調査 参考表：不詳補完結果」による2020（令和2）年10月1日現在の男女別・年齢5歳階級別人口を基準人口としました。

(2)基本データ

コーホート要因法による人口推計を行ううえで、a.生存率、b.純移動率、c.子ども女性比が必要になります。人口推計を行う2020年から2025年の値について、それぞれ以下のように算出しました。

a. 生存率

基準年における生存率は、「三重県衛生統計年報 人口動態統計」における、2015年～2020年の本市の男女別・年齢5歳階級別「死亡数」をもとに、2015年の各年齢階級人口が5年後に死亡する割合（死亡率）を算出し、1から差し引いたものを生存率aとしました。

なお、国勢調査による年齢5歳階級別人口では5歳刻み人口が95歳～99歳までが示されているのに対し、「三重県衛生統計年報 人口動態統計」の5歳刻み死亡数は85歳～89歳までしかありません。そのため、算出した5歳刻み生存率は80歳～85歳が85歳～89歳になるまでとしました（算出したのは85歳以上が90歳以上になるまで）。

b. 純移動率

2020年の（X～X+4）歳の基準人口（Y）に生存率aを乗じて5年後の（X+5～X+9）歳の人口（Ya）を算出。5年後の（X+5～X+9）歳の人口（Z）との差を移動数（Ya-Z）と仮定し、2020年の（X～X+4）歳の基準人口（Y）で除した値を純移動率b（=（Ya-Z）/ Y）としました。

上記の生存率の結果をもとに算出するため、5歳刻み純移動率についても、80歳～85歳が85歳～89歳になるまでとしました（算出したのは85歳以上が90歳以上になるまで）。

一般的に純移動率は、推計の基準年から遡った最新の5年間の算出値を用います。

しかし、東海地方の人口動態をみると、2020 年以降のコロナ禍による影響など年による変動が大きいことが確認されました。

そのため、純移動率の設定によって人口推計結果が大きく変動する可能性があることから、以下の 3 つの純移動率を算出し、3 ケースによる推計を行いました。

図表 41 純移動率の仮説設定にもとづく推計パターン

	内容
推計方法 A	国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和 5 年推計）」の推計結果
推計方法 B	2015（平成 27）年～2020（令和 2）年の純移動率を採用したもの
推計方法 C	2010（平成 22）年～2020（令和 2）年の純移動率を採用したもの

c. 子ども女性比

2020 年の 0 歳～4 歳の人口（男女計）を同年の 20 歳～44 歳女性人口で除した値です。本推計では合計特殊出生率を使用して出生数を算出するのではなく、男女別の 0 歳～4 歳人口の推計を行っています。

なお、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成 30 年推計）」（前回推計）において、女性人口を 15 歳～49 歳としていましたが、令和 5 年推計において、女性人口を 20 歳～44 歳に変更していることから、本推計においてもこれを採用しています。

(3) 将来推計の設定条件

a. 将来の生残率

2025～2030 年以降は「日本の地域別将来推計人口（令和 5（2023）年推計）」に示された本市の将来の生残率を採用しました。

b. 将来の純移動率

2020～2025 年の純移動率は基準年における 3 ケースの推計値で固定しました。

2025 年～2030 年以降は、 $(2020 + 5t)$ 年の純移動率に「日本の地域別将来推計人口（令和 5（2023）年推計）」に示された本市の純移動率の差を加算しました。

c. 将来の子ども女性比

2020～2025 年の子ども女性比は、2015 年から 2020 年までのトレンドから設定しました。

2025～2030 年以降は、 $(2020 + 5t)$ 年の子供女性比に「日本の地域別将来推計人口（令和 5（2023）年推計）」に示された本市の子ども女性比の差を加算しました。

d. 将来の 0 歳～4 歳の性比

2025 年の 0 歳～4 歳の性比は、2015 年及び 2020 年の平均値で設定しました。

2030 年以降は、 $(2020 + 5t)$ 年の性比に「日本の地域別将来推計人口（令和 5（2023）年推計）」に示された本市の 0 歳～4 歳の性比の差を加算しました。

(4) その他(2050 年以降の推計)

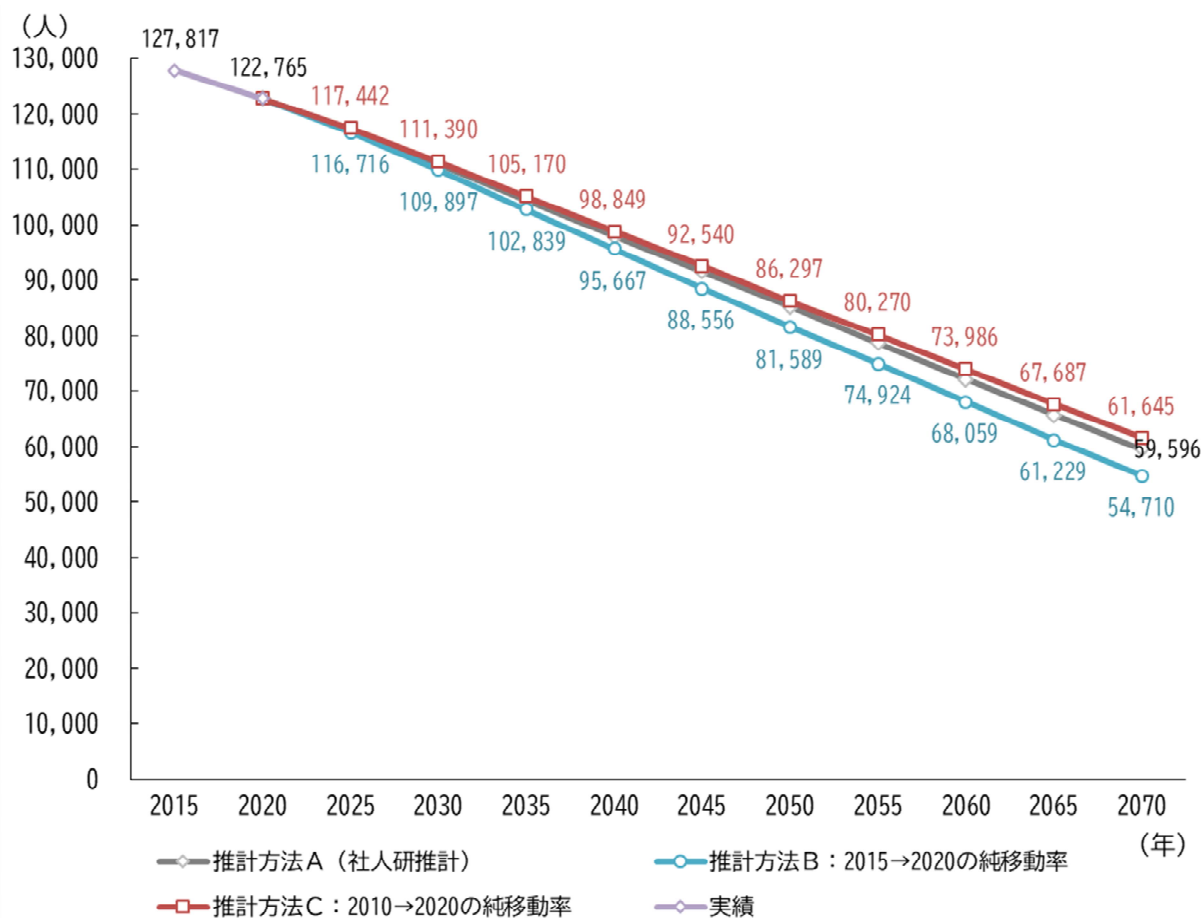
「日本の地域別将来推計人口（令和 5（2023）年推計）」は推計期間が 2050 年までであるため、設定条件とする仮定値が掲載されていません。そのため、2050～2070 年までの推計は、各仮定値の 2050 年までの 5 年間の平均変化率を勘案して設定しました。

3-2 将来人口の推計結果

3-2-1 推計結果

本市における直近の人口（2025 年 2 月末・住民基本台帳）は 118,500 人です。2020 年から 2024 年までの変化が今後継続すると仮定すると、推計方法 C が最も近くなります。

図表 42 人口推計結果



推計方法 \ 年	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065	2070
推計方法 A	127,817	122,765	117,152	110,846	104,428	97,992	91,599	85,241	78,759	72,171	65,712	59,596
推計方法 B	127,817	122,765	116,716	109,897	102,839	95,667	88,556	81,589	74,924	68,059	61,229	54,710
推計方法 C	127,817	122,765	117,442	111,390	105,170	98,849	92,540	86,297	80,270	73,986	67,687	61,645

※国立社会保障・人口問題研究所：「日本の地域別将来推計人口（令和 5（2023）年推計）」の推計結果

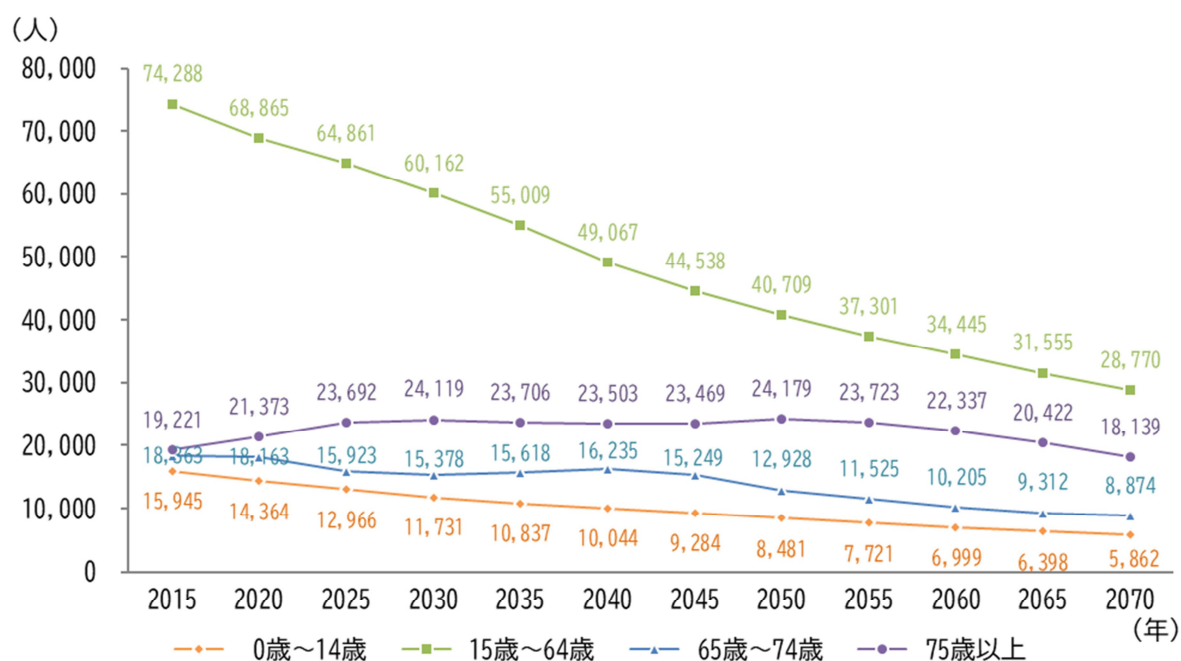
（参考）2025 年 2 月末の住民基本台帳人口は 118,500 人

3-2-2 年齢4区分人口の推計結果（推計方法C）

「15歳～64歳」（生産年齢人口）は減少を続け、2035年には2020年から約14,000人減少し、55,009人となる見込みです。同期間において「0歳～14歳」（年少人口）は約3,400人減少し、10,837人となる見込みです。

「65歳～74歳」（前期高齢者人口）は、緩やかに減少しますが、団塊ジュニア世代が65歳以上（高齢者）に移行する2035年から2040年にかけて一時的に増加します。「75歳以上」（後期高齢者人口）は、2030年まで増加し、その後、団塊ジュニア世代が後期高齢者に移行する2045年から2050年にかけて再び増加します。

図表 43 年齢4区分人口推計結果（推計方法C）



年齢区分	年	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065	2070
0歳～14歳		15,945	14,364	12,966	11,731	10,837	10,044	9,284	8,481	7,721	6,999	6,398	5,862
15歳～64歳		74,288	68,865	64,861	60,162	55,009	49,067	44,538	40,709	37,301	34,445	31,555	28,770
65歳～74歳		18,363	18,463	15,923	15,378	15,618	16,235	15,249	12,928	11,525	10,205	9,312	8,874
75歳以上		19,221	21,373	23,692	24,119	23,706	23,503	23,469	24,179	23,723	22,337	20,422	18,139
計		127,817	122,765	117,442	111,390	105,170	98,849	92,540	86,297	80,270	73,986	67,687	61,645

※年齢不詳分を按分しているため、四捨五入の関係で前頁の総人口とは一致しない場合があります

3-2-3 将来展望

(1)基本的な考え方

「3-2-1 推計結果」において、本市の将来人口の見通しについて推計を行いました。ここでは人口動態に影響を与える要素である合計特殊出生率の上昇や純移動率の改善による将来人口のシミュレーションを行い、人口減少の抑制効果を確認します。

①合計特殊出生率の上昇

国の希望出生率である 1.8（国の長期ビジョン）としてシミュレーションしました。

なお、本市の人口推計の基準年（2020 年）における合計特殊出生率は 1.405 であり、約 0.4 の上昇を見込んだものとなります。

2025 年から定率で上昇して 2050 年に 1.8 に達するように設定し、2050 年以降は 1.8 を継続することとしました。

②純移動率の転出超過の改善

男女別・年齢階級別の純移動率については、地域の活性化、郷土への関心が高まっていたと考えられる前回式年遷宮（2013 年）における社会減の改善傾向（318 人/年）が、継続するものとしてシミュレーションしました。

次回式年遷宮（2033 年）時に 318 人の社会減の改善が図られ、2034 年以降は、その状況が継続することとしました。

③合計特殊出生率の上昇及び純移動率の転出超過の改善

上記①及び②が同時になされたとしてシミュレーションしました。

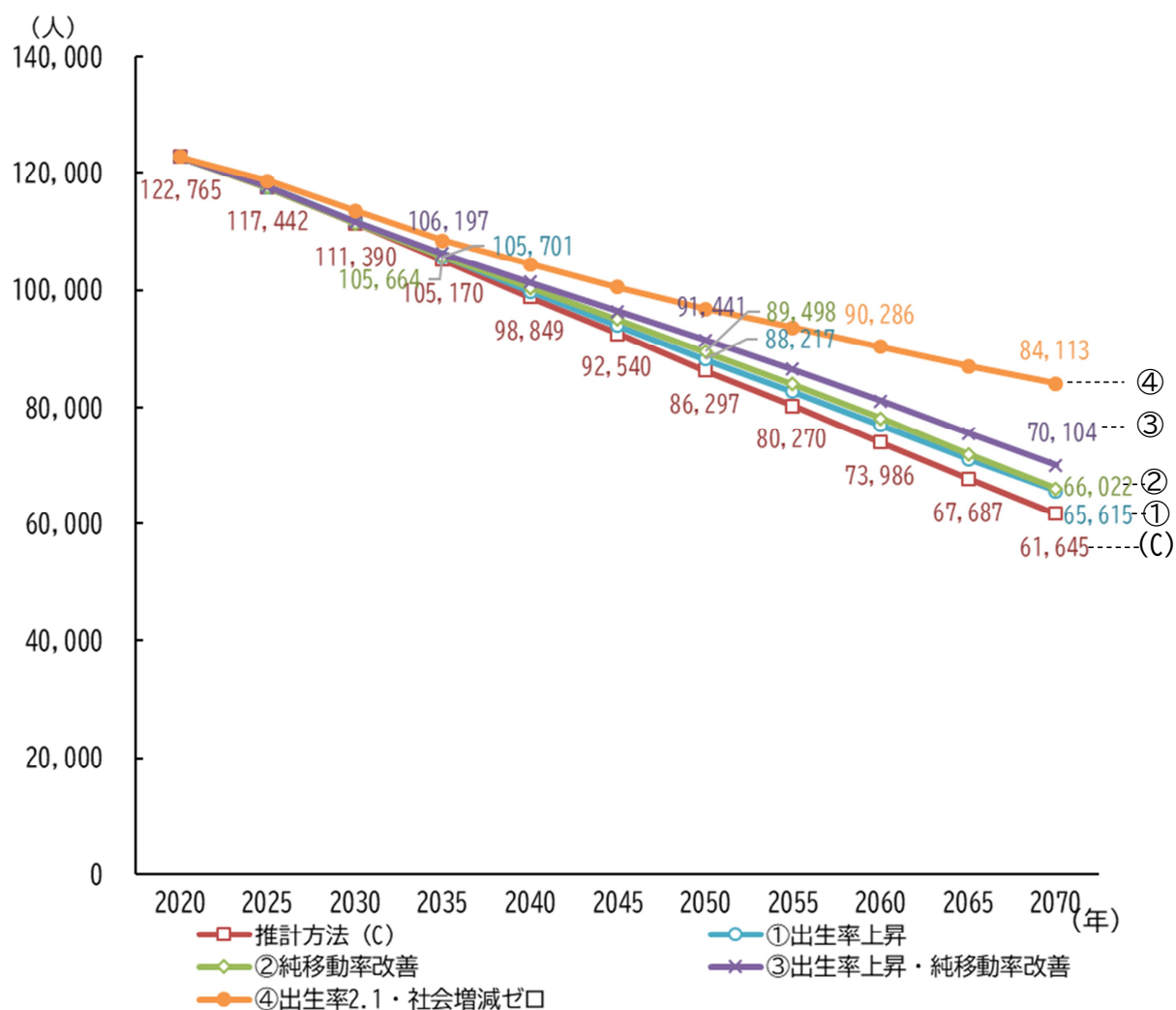
④前回ビジョン推計との比較

合計特殊出生率が 2040 年に 2.1 を達成し、以降 2.1 を維持し、また、社会増減が 2060 年までにゼロの状態を達成し、以降もその状態を維持することとしてシミュレーションしました。

(2)シミュレーション結果

シミュレーション結果は下記のとおりです。

図表 44 シミュレーション結果



推計方法 \ 年	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065	2070
推計方法 (C)	122,765	117,442	111,390	105,170	98,849	92,540	86,297	80,270	73,986	67,687	61,645
①出生率上昇	122,765	117,549	111,674	105,701	99,754	93,895	88,217	82,707	76,928	71,140	65,615
②純移動率改善	122,765	117,442	111,390	105,664	100,447	95,042	89,498	84,004	78,085	71,990	66,022
③出生率上昇・純移動率改善	122,765	117,549	111,674	106,197	101,355	96,405	91,441	86,491	81,095	75,533	70,104
④出生率2.1・社会増減ゼロ	122,765	118,606	113,533	108,493	104,432	100,481	96,825	93,578	90,286	87,074	84,113

第4章 目指すべき将来の方向性

人口減少問題に対処するためには、大きく分けて二つのアプローチがあります。

一つは「人口減少を穏やかにするための緩和策」、もう一つは「人口が減少しても社会機能を維持するための適応策」です。

人口減少を穏やかにするための緩和策については、結婚を望む方が結婚できるための支援や、子どもを産み・育てることによる負担の軽減策などによる出生率の向上対策、雇用の創出や地元企業への就職促進の取組などの就労対策や住環境の向上などの定住対策などにより、人口の減少速度を遅くすることを目指す対策です。

人口が減少しても社会機能を維持するための適応策については、デジタル技術の活用等による生産性の向上や、住民同士の支え合いの強化、施設の統廃合などの効率化など、人口が減少しても地域社会や経済が円滑に動くようにするための対策です。

人口減少の影響を最小限に抑え、持続可能な社会を目指すため、「人口減少を穏やかにするための緩和策」と「人口が減少しても社会機能を維持するための適応策」の両方を効果的に実施していくことが必要です。



伊勢市の市章

「ISE」の文字をモチーフに、神宮の森や伊勢平野を包むように広がる青空と清流、そして、豊潤な伊勢湾を緑色と青色で表現。中央の「S」で勢いを表すとともに、循環型のまちづくりを基本理念とした都市を象徴しており、平成 17 年 11 月 1 日に制定されました。

伊勢市のロゴタイプ

伊勢市

親しみやすさ、温かさが感じられる丸みのある書体で、伊勢市を訪れる旅人への“おもてなしの心”を表現。生き生きとした線は、豊かな自然と新鮮な海の幸、山の幸をイメージしています。繋がっていく筆脈で大切に受け継がれてきた伊勢市の“伝統と文化を愛する心”、ずっと伸びた爽快な線に光を入れて“未来への希望と世界平和を願う心”を表現しており、平成 28 年 4 月 8 日より使用が開始されました。

市の花

ジングウツツジ

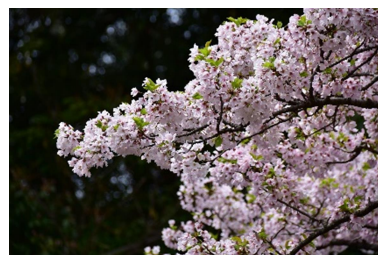
神宮林内の神路山、島路山で発見され、その名が付けられました。伊勢志摩地域、静岡県浜松市、愛知県東部に生育しています。



市の木

オヤネザクラ

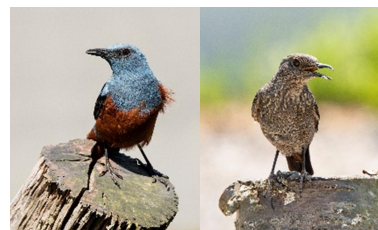
昭和 61 年 7 月 3 日に、市の天然記念物に指定。国指定史跡・旧豊宮崎文庫に所在しています。昭和 3 年にヤマザクラの新種として発表されました。



市の鳥

イソヒヨドリ

大きさは 25cm 程度で、美しい声で鳴きます。オスとメスでは羽の色が異なります。磯や海岸部を生息地としていましたが、最近は、市街地などにもその生息域を広げてきています。



オス

メス

伊勢市人口ビジョン

令和7年版

発 行 伊勢市情報戦略局企画調整課
〒516-8601
三重県伊勢市岩渕1丁目7番29号
電 話 0596-21-5507
F A X 0596-21-5522
E-mail kikaku-cyousei@city.ise.mie.jp